

NEC

P C 9 8 -

NX

PC98-**NX** SERIES

VersaPro
VersaPro J

タブレットPC

活用ガイド ハードウェア編

本体の構成各部

周辺機器の接続と設定

システムの設定

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』7 マニュアルの使用方法』でご確認ください。

添付品の確認、本機の接続、Windows XPのセットアップ
→『はじめにお読みください』

本機を安全に使うための情報
→『安全にお使いいただくために』

このマニュアルです

本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)
→『活用ガイド ハードウェア編』(電子マニュアル)

本機の機能を拡張する機器の取り付け方
→『活用ガイド ハードウェア編』(電子マニュアル)

本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加
→『活用ガイド ソフトウェア編』(電子マニュアル)

トラブル解決方法
→『活用ガイド ソフトウェア編』(電子マニュアル)

再セットアップ方法
→『活用ガイド 再セットアップ編』

選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法
→ Office Personal 2003、Office Professional Enterprise 2003、Office OneNote 2003があり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

パソコンに関する相談窓口、保証期間と保証規定の詳細内容およびQ&A、有償保守サービス、お客様登録方法、NECの企業向け情報機器関連総合サイト「NEC 8番街」のご案内
→『保証規定 & 修理に関するご案内』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。
<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>



はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windowsの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それら进行操作するための基本的な動作がひと通りでき、Windowsもしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがパソコンに初めて触れるのであれば、上記の基本事項に関連説明書などでひと通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NXシリーズ VersaPro VersaPro J

VY11F/GL-R、VJ11F/GL-R

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようにになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

仕様についての詳細は、『はじめにお読みください』の「9 付録 機能一覧」をご覧ください。

2004年 9月 初版

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



メモ

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。



参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

本機	次の機種を指します。 VY11F/GL-R、VJ11F/GL-R
本体	周辺機器を含まない次の機種を指します。 VY11F/GL-R、VJ11F/GL-R
タブレットPC	次の機種を指します。 VY11F/GL-R、VJ11F/GL-R
CD-ROMモデル	CD-ROMドライブが添付されているモデルのことで
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブが添付されているモデルのことで
DVDスーパーマルチモデル	DVDスーパーマルチドライブが添付されているモデルのことで
CD/DVDモデル	CD-ROMドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、またはDVDスーパーマルチドライブを添付しているモデルのことで
フロッピーディスクモデル	フロッピーディスクドライブが添付されているモデルのことで
無線LANモデル	無線LAN(IEEE802.11a/b/g)機能を搭載しているモデルのことで
【 】	【 】で囲んである文字は、Tablet PC 入力パネル、またはスクリーンキーボードのキーを指します。 【Ctrl】+【Y】と表記してある場合は、【Ctrl】キーを押したまま【Y】キーを押すことを指します。Tablet PC 入力パネルのスクリーンキーボードから入力する場合は、【Ctrl】などのキーをタップし、次のキーをタップすることで入力します。
BIOSセットアップユーティリティ	本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

CD/DVDドライブ	本文中に記載されているCD/DVDドライブは、CD-ROMドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、またはDVDスーパーマルチドライブを指します。
「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「メモ帳」	「スタート」ボタンをタップし、現れたポップアップメニューから「すべてのプログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」「メモ帳」を順に選択する操作を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、 Windows XP	Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition 2005

このマニュアルで使用しているイラスト、画面、記載内容について

- ・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

デバイス マネージャの開き方

- 1 「スタート」ボタン 「マイ コンピュータ」をタップ
- 2 「システムのタスク」の「システム情報を表示する」をタップ
- 3 「ハードウェア」タブの中の「デバイス マネージャ」ボタンをタップ
「デバイス マネージャ」が表示されます。



当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマークロゴは参加各国の間で統一されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、技術基準認証済みの通信機器が搭載されています。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

[充電されたバッテリーパックを取り付けている場合]

本装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

[バッテリーパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、DVDスーパーマルチドライブが添付されています。

ご注意

- (1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6)海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindowsは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROMは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9)ハードウェアの保守情報をセーブしています。
- (10)本書に記載しているWebサイトや連絡先は、2004年8月現在のもです。

Microsoft、MS-DOS、WindowsおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel、Pentium、Intel SpeedStepは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

StandbyDisk Solo RBLは、StandbySoft LLC / (株)ネットジャパンの商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd. 2004

日本電気株式会社、NECパーソナルプロダクツ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

Notes on export

This product(including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC¹ will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC¹ does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product(including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

1:NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

本体の構成各部	15
各部の名称	16
タブレットPC	16
各部の説明	18
表示ランプ	20
バッテリー	22
バッテリーパックについて	22
バッテリーで本機を使うときの注意	23
充電のしかた	25
バッテリー残量の確認	25
バッテリーリフレッシュ	26
バッテリーパックの交換	28
省電力機能	30
省電力機能とは	30
省電力機能使用上の注意	30
スタンバイ状態(サスPEND)にする	32
休止状態(ハイバネーション)にする	33
スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する	34
省電力機能の設定をする	35
電源の自動操作	37
Intel SpeedStep® テクノロジ	37
タブレット	38
タブレットPC用ペン	38
タブレットの使い方	39
タブレットとペンの設定	40
タブレットを使用するときの注意	41
ボタン	42
ボタンの名称と機能	42
ボタンの設定	43
液晶ディスプレイ	44
画面表示を調整する	44
表示できる解像度と表示色	44
画面回転機能	45
省電力機能	46
デュアルディスプレイ機能	47
ハードディスク	50
ハードディスク使用上の注意	50
領域の確保とフォーマット	50
ハードディスクのメンテナンス	53

ハードディスクの信頼性機能	53
フロッピーディスクドライブ	54
フロッピーディスクドライブの取り付け方と取り外し方	54
各部の名称と役割	54
使用できるフロッピーディスクの種類	55
使用上の注意	55
CD/DVDドライブ	56
CD/DVDドライブの接続のしかたと取り外し方	56
各部の名称と役割	58
使用できるディスク	58
使用上の注意	59
サウンド機能	61
音量を調節する	61
音楽CDを再生するには	62
マイクの設定をする	63
MIDIの設定をする	64
LAN(ローカルエリアネットワーク)	66
LANへの接続	66
運用上の注意	67
本機の運用管理	68
ネットワークブート	69
リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)	70
無線LAN機能	72
無線LAN使用上の注意	72
無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意	72
本機で利用可能なセキュリティ	74
無線LAN製品との接続	75
無線LANの設定	75
無線LANアンテナを立てる	76
セキュリティ機能	77
本機のセキュリティ機能	77
パスワード	77
ハードディスクのパスワード	79
その他のセキュリティ機能を使う	81

周辺機器の接続と設定 83

接続できる周辺機器	84
本体に接続できる周辺機器一覧	84
周辺機器の利用	86
周辺機器利用上の注意	86
周辺機器の取り外しと再接続	88
マウス	89
マウスを使用する	89
マウスの設定方法	89
外部ディスプレイ	90
外部ディスプレイの接続	90
プロジェクトの接続	91
表示するディスプレイを変更する	92
ディスプレイにあわせて本機の設定をする	93
コンパクトフラッシュカード	95
使用上の注意	95
コンパクトフラッシュカードのセットのしかたと取り出し方	95
コンパクトフラッシュカードの割り込みレベルの設定	97
USBコネクタ	98
USBとは	98
USBコネクタに接続する	98
USBコネクタから機器を取り外す	100
スタンド	101
スタンドを使う	101

システムの設定 103

BIOSセットアップユーティリティの使い方	104
BIOSセットアップユーティリティの使い方	104
起動と終了	105
工場出荷時の設定値に戻す	106
設定項目一覧	106

付録	111
割り込みレベル・DMAチャンネル	112
割り込みレベルとDMAチャンネルについて	112
お手入れについて	114
お手入れを始める前に	114
お手入れのしかた	115
索引	117

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

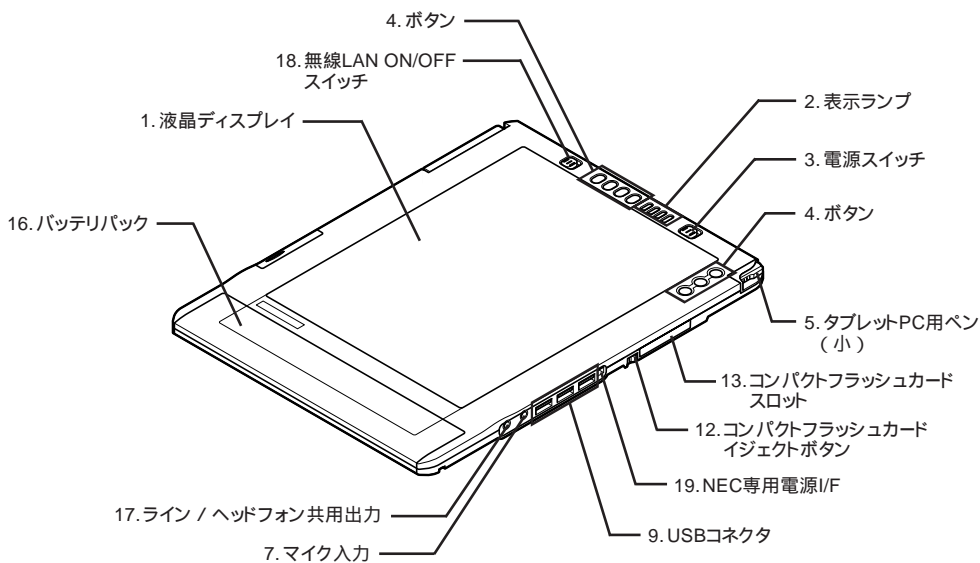
各部の名称	16
バッテリー	22
省電力機能	30
タブレット	38
ボタン	42
液晶ディスプレイ	44
ハードディスク	50
フロッピーディスクドライブ	54
CD/DVDドライブ	56
サウンド機能	61
LAN(ローカルエリアネットワーク)	66
無線LAN機能	72
セキュリティ機能	77

各部の名称

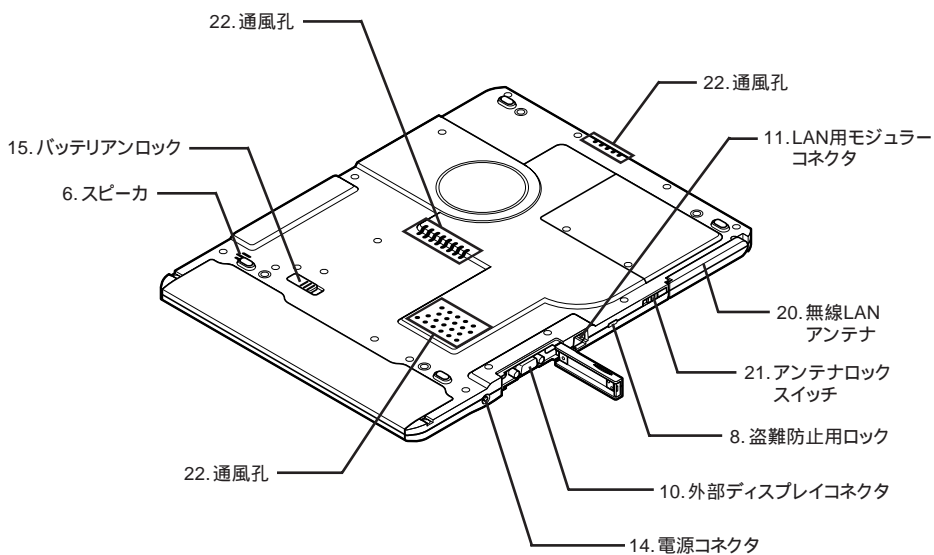
本体各部の名称と配置について説明しています。

タブレットPC

本体前面 / 右側面



本体背面 / 左側面



各部の説明

1. 液晶ディスプレイ

本機のディスプレイです。

タブレット機能を搭載しており、タブレットPC用ペンを使って本機の手続きができます。

詳しくは「液晶ディスプレイ」(p.44)をご覧ください。タブレット機能については「タブレット」(p.38)をご覧ください。

2. 表示ランプ

本機の動作状態を示します。

詳しくは「表示ランプ」(p.20)をご覧ください。

3. 電源スイッチ(⏻)

電源のオン / オフや省電力機能を使用するときのスイッチです。

詳しくは「省電力機能」(p.30)をご覧ください。

4. ボタン

本機を操作するためのボタンです。

詳しくは「ボタン」(p.42)をご覧ください。

5. タブレットPC用ペン(小)

本機のタブレットを使用するためのペン(小)です。

タブレットPC用ペン(小)は本体に収納できます。

詳しくは「タブレット」(p.38)をご覧ください。

6. スピーカ

内蔵のモノラルスピーカです。

7. マイク入力(🎧)

市販のマイクロフォンを接続し、音声を入力するための端子です。

8. 盗難防止用ロック(🔒)

別売のセキュリティケーブルを取り付けることができます。

詳しくは「セキュリティ機能」(p.81)をご覧ください。

9. USBコネクタ()

USB機器を接続するための端子です。

詳しくは「PART2 周辺機器の接続と設定」の「USBコネクタ」(p.98)をご覧ください。

10. 外部ディスプレイコネクタ()

市販のディスプレイや 프로젝タを接続し、本機の画面を出力するための端子です。

詳しくは「PART2 周辺機器の接続と設定」の「外部ディスプレイ」(p.90)をご覧ください。

11. LAN用モジュラーコネクタ()

LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するための端子です。

詳しくは「LAN(ローカルエリアネットワーク)」(p.66)をご覧ください。

12. コンパクトフラッシュカードイジェクトボタン

コンパクトフラッシュカードを取り出すときに使います。

詳しくは「PART2 周辺機器の接続と設定」の「コンパクトフラッシュカード」(p.95)をご覧ください。

13. コンパクトフラッシュカードスロット

市販のコンパクトフラッシュカードをセットするためのスロットです。

詳しくは「PART2 周辺機器の接続と設定」の「コンパクトフラッシュカード」(p.95)をご覧ください。

14. 電源コネクタ()

添付のACアダプタを接続するための端子です。

15. バッテリーアンロック()

バッテリーパックを取り外すときに使用します。

詳しくは「バッテリー」(p.22)をご覧ください。

16. バッテリーパック

AC電源が無いところで電源を供給するための充電式電池です。

詳しくは「バッテリー」(p.22)をご覧ください。

17. ライン / ヘッドフォン共用出力()

市販のヘッドフォンやオーディオ機器を接続し、音声を出力するための端子です。

18.無線LAN ON/OFFスイッチ(無線LANモデルのみ)

無線LAN機能のオン / オフをするためのスイッチです。

詳しくは「VersaPro / VersaPro J電子マニュアル」の「無線LAN (IEEE802.11a/b/g)」についてをご覧ください。

19.NEC専用電源I/F

専用のCD/DVDドライブに電源を供給するためのコネクタです。

詳しくは「CD/DVDドライブ」(p.56)をご覧ください。

20.無線LANアンテナ

無線LANの電波を受信するためのアンテナです。立てて使用することもできます。詳しくは「無線LAN機能」(p.76)をご覧ください。

21.アンテナロックスイッチ

無線LANアンテナをロックしているスイッチです。アンテナを立てるときに操作します。

詳しくは「無線LAN機能」(p.76)をご覧ください。

22.通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。布や手などでふさがないようにしてください。

表示ランプ

④電源ランプ

ランプ		本機の状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

□ バッテリ充電ランプ

ランプ		本機の状態
オレンジ	点灯	バッテリーパック充電中
	点滅	バッテリーのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

□ ディスクアクセスランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	ハードディスクドライブにアクセス中
消灯	ハードディスクドライブにアクセスしていない

✔ チェック!!

ディスクアクセスランプ点灯中は、電源スイッチを操作しないでください。
ハードディスクが破損する場合があります。

•無線LANランプ(無線LANモデルのみ)

ランプ	状態
緑点灯	無線LAN機能が使用可能
消灯	無線LAN機能が使用不可

バッテリー

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付または別売のバッテリーパックだけで駆動することができます。

バッテリーパックについて

- ・本機には、リチウムイオン電池を使用しています。
- ・リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- ・交換後不要になった電池、および使用済み製品から取り外した電池のリサイクルに際しては、ショートによる発煙、発火のおそれがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れて、以下の拠点に設置した充電式電池回収BOXに入れてください。
 - 個人ユーザー様: 充電式電池リサイクル協力店くらぶ
詳細は、電池工業会ホームページ <http://www.baj.or.jp/> をご覧ください。
 - 法人ユーザー様: NEC法人向け二次電池持ち込み拠点
詳細は、NEC環境ホームページ http://www.nec.co.jp/ecofja/products/3r/index_denchi.html をご覧ください。
- ・リサイクル協力店のお問い合わせは、下記へお願いします。
 - 製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
 - 有限責任中間法人JBRCおよび充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局
- ・リサイクル時のご注意
 - 電池はショートしないようにしてください。火災・感電の原因となります。
 - 外装カバー（被覆・チューブなど）をはがさないでください。
 - 電池を分解しないでください。



バッテリーで本機を使うときの注意

✓ チェック!!

- ・ バッテリーが十分に充電されている場合は、特に必要でないかぎり、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。
- ・ 充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- ・ ハードディスクやフロッピーディスクなどへの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスクやフロッピーディスクなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリーの上手な使い方

- ・ バッテリー残量の表示精度を良くするには定期的にバッテリーフレッシュを実行してください。

参照 ▶ バッテリーフレッシュについて 「バッテリーフレッシュ (p.26)

- ・ 本機を長期間使用しない場合は、バッテリー残量を50%程度にしてバッテリーパックを取り外し、涼しいところに保管しておくことでバッテリーの寿命を長くすることができます。
- ・ バッテリーだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照 ▶ 省電力機能について 「省電力機能 (p.30)

- ・ バッテリーは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2~3か月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなった場合は

バッテリーの残量が少なくなると、電源ランプ (①) が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ (□) が点灯し、バッテリーの充電が始まります。また、バッテリーを充電しながら本機を使用することもできます。

ACコンセントが使えない場合

使用中のアプリケーションを終了して、本機の電源を切ってください。

ACコンセントから電源を供給せず、本機の電源を切らないままおいておくと、「コントロールパネル」の「電源オプション」で設定してある状態になります。

メモ

「電源オプション」は、「スタートボタン」「コントロールパネル」をタップし、「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をタップして開くことができます。

バッテリーが少なくなった場合の動作の設定

バッテリー残量が少なくなったりバッテリー残量がなくなった場合に、本機をどのような動作や状態にするかを設定することができます。

✓ チェック!!

次の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限 (Administrator権限) を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

動作の設定は、「スタートボタン」「コントロールパネル」をタップし、「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をタップすると表示されるウインドウの「アラーム」タブで行うことができます。

充電のしかた

✓ チェック!!

- ・ バッテリーの充電中は、バッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・ 購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。

バッテリーの充電のしかた

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。
本機の電源を入れて使用していても充電されます。

メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

参照▶ バッテリーの充電時間について 『はじめにお読みください』の「9 付録 機能一覧」

充電状態を表示ランプで確認する


バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプ () で確認することができます。

参照▶ バッテリー充電ランプについて 「各部の名称」の「表示ランプ」(p.20)

バッテリー残量の確認

バッテリー残量は、次の方法で確認することができます。

画面右下の通知領域(タスクトレイ)で確認する


- 1 画面右下の通知領域(タスクトレイ)にある  の上にポインタをあわせる
バッテリー残量が表示されます。

詳細な情報を確認する

1 「スタート」ボタン 「コントロール パネル」をタップし、「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をタップ
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「電源メーター」タブをタップ

メモ

通知領域(タスクトレイ)のをダブルタップしても、バッテリー残量やバッテリーに関する詳しい情報を表示できます。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のような場合には、バッテリーリフレッシュを実行してください。

- ・ バッテリーでの駆動時間が短くなった
バッテリーを完全に使い切らない状態で充電を繰り返していると、バッテリーの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これを「バッテリーのメモリ効果」と呼びます。
- ・ 購入直後や長期間、バッテリーを使用しなかったため、バッテリーの性能が一時的に低下した
- ・ バッテリーの残量表示に誤差が生じている

バッテリーリフレッシュの実行

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける
- 3 本機にACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
- 4 バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリーパックを本体から外して、再度取り付ける

5 バッテリーをフル充電(バッテリー充電ランプが消灯した状態)まで充電する

6 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたらDOWNボタンを押す

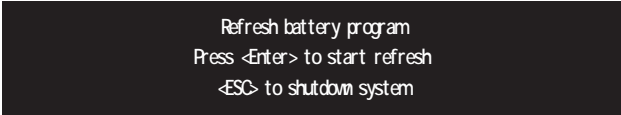
BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

参照▶ BIOSセットアップユーティリティについて 「PART3 システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.104)

7 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

8 「Exit」をタップし、「Battery Refresh」をダブルタップ

9 「Refresh your battery now?」と表示されたら「Yes」をタップ
次のような画面が表示されます。



Refresh battery program
Press <Enter> to start refresh
<ESC> to shutdown system

10 Enterボタンを押す
バッテリーリフレッシュが始まります。

バッテリーリフレッシュが完了しバッテリー内の電力がなくなると、自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。
以上でバッテリーリフレッシュは終了です。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断する場合は、本機の電源を切ってください。

バッテリーパックの交換

交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリーフレッシュを行ってください。それでも使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

参照 ▶ バッテリーフレッシュについて 「バッテリーフレッシュ」(p.26)

本機のバッテリースロットに取り付けられる交換用バッテリーパックは次の通りです。

モデル	バッテリーパック
タブレットPC	PC-VP-TP08(バッテリーパック(S)) PC-VP-TP09(バッテリーパック(M))

チェック!!

バッテリーは消耗品です。充放電を繰り返すと、充電能力が低下します。

バッテリーパックの交換のしかた

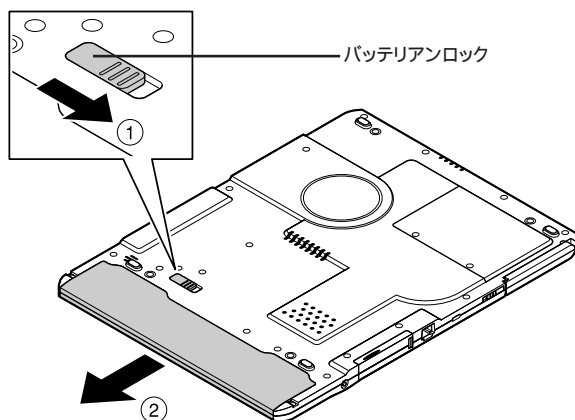
チェック!!

- ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・ 電源が入っているときや、スタンバイ状態にバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ(④)が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。
- ・ 特に必要が無い場合は、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜く
- 3 ACアダプタを本機から取り外す

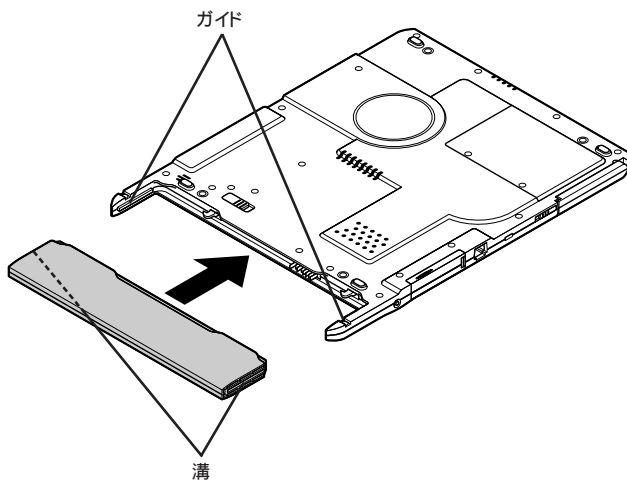
4 本体を裏返す

5 バッテリーロック を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーパックを取り外す



6 新しいバッテリーパックを取り付ける

バッテリーパックの両側の溝と本体のガイドを合わせて、矢印の方向にカチッと音がするまでしっかりと取り付けてください。



これで、バッテリーパックの交換は完了です。

省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、本機の主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したい場合や、中断した作業をすぐに再開したい場合にも便利な機能です。

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」「休止状態(ハイバネーション)」「Intel SpeedStep®テクノロジー」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」をあわせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。

- 参照
- ・スタンバイ状態(サスペンド)について 「スタンバイ状態(サスペンド)」にする (p.32)
 - ・休止状態(ハイバネーション)について 「休止状態(ハイバネーション)」にする (p.33)
 - ・Intel SpeedStep®テクノロジーについて 「Intel SpeedStep®テクノロジー」 (p.37)

省電力機能使用上の注意

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のような場合には、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・プリンタへ出力中
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・LANまたは無線LANを使用して、ファイルコピーなどの通信動作中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・ハードディスク、CDやDVD、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・「システムのプロパティ」ウィンドウを表示中
- ・Windowsの起動/終了処理中

- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用
中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないコンパクトフラッシュカード、USB対応機器を使用
中

スタンバイ状態または休止状態を使用する場合の注意

スタンバイ状態または休止状態にする場合は、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態または休止状態から復帰後、すぐにスタンバイ状態または
休止状態にする場合は、本機に負担がかからないように、復帰後、約5秒以
上経過してから操作してください。
- ・スタンバイ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しま
すので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスタンバイ状態また
は休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、ス
タンバイ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあ
ります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめ
お使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スタンバ
イ状態または休止状態を使用してください。
- ・バッテリーのみで使用する場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認してお
いてください。また、バッテリー残量が少なくなってきた場合の本機の動作につ
いて設定しておくこともできます。

参照 「バッテリー」の「バッテリーが少なくなった場合の動作の設定」(p.24)

- ・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスク、コンパクトフ
ラッシュカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存
されないことがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態中に、コンパクトフラッシュカードを入れ替
えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できな
くことがあります。
- ・USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合が
あります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を外してください。
- ・スリープ状態中やスリープ状態への移行中にはUSB対応機器の抜き差し
をしないでください。
- ・「電源オプションのプロパティ」で各設定を変更する場合は、コンピュータの
管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオン
してください。「電源オプションのプロパティ」は、「スタートボタン」「コン
トロールパネル」をタップし、「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプ
ション」をタップすると表示されます。

- ・ CDやDVD、フロッピーディスクをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにCDやDVD、フロッピーディスクから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、CDやDVD、フロッピーディスクを取り出してから休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用している場合は、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。
- ・ 本機にフォトCDをセットしたままスタンバイ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。

スタンバイ状態または休止状態から復帰する場合の注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰する場合は、次のことに注意してください。

- ・ スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰する場合は、本機に負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上経過してから操作してください。
- ・ スタンバイ状態または休止状態中にコンパクトフラッシュカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・ スリープ状態からの復帰中にはUSB対応機器の抜き差しをしないでください。

スタンバイ状態(サスペンド)にする

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。

購入時の状態では、バッテリー駆動時、一定時間以上タブレットなどからの入力がないときに自動的にスタンバイ状態になります。

スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が点滅します。

このほか、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。

Windowsの終了メニューで「スタンバイ」を選択し、スタンバイ状態にする
 「スタート」ボタン 「終了オプション」 「スタンバイ」ボタンをタップ
 電源スイッチを操作する

設定をすると、電源スイッチを操作してスタンバイ状態にすることができるようになります。

参照 「省電力機能の設定をする」の「電源スイッチで行う省電力機能の設定 (p.35)

休止状態(ハイバネーション)にする



作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。

データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断する場合などに便利です。

購入時の状態では、バッテリー駆動時、一定時間以上タブレットなどからの入力がないときに自動的にスタンバイ状態になり、更に時間が経過すると自動的に休止状態になります。休止状態になると、本機の電源が切れ、電源ランプ(④)が消灯します。

このほか、次の方法で休止状態にすることができます。

「スタート」ボタンから休止状態にする

- 1 「Tablet PC 入力パネル」が表示されていない場合は、タスクバーのをタップして「Tablet PC 入力パネル」を表示する
- 2 をタップ
- 3 「スタート」ボタン 「終了オプション」をタップ
- 4 【h】をタップ

電源スイッチを押す

参照 「省電力機能の設定をする」の「電源スイッチで行う省電力機能の設定 (p.35)

スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する

スタンバイ状態や休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

電源スイッチを操作する

スタンバイ状態から復帰します。ログオン画面が表示された場合は、「ユーザー名」をタップしてログオンしてください。複数のユーザーで本機を使用している場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をタップしてください。ログオンするとスタンバイ状態から復帰します。



タスクスケジューラで時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

休止状態から復帰する

休止状態からの復帰は次の方法で行います。

電源スイッチを操作する

本機の電源が入り「Windowsを再開しています...」と表示された後、休止状態から復帰します。ログオン画面が表示された場合は、「ユーザー名」をタップしてログオンしてください。複数のユーザーで本機を使用している場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をタップしてください。ログオンすると、休止状態から復帰します。

省電力機能の設定をする

「電源オプション」では、省電力機能を実行するときの操作方法や実行するまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にも省電力機能が働くように設定できます。また、あらかじめ設定されている電源設定モードから選択することもできます。

電源スイッチで行う省電力機能の設定

電源スイッチを操作したときの、本機の省電力機能の動作を設定する場合は、以下の手順で行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロール パネル」をタップし、「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をタップ
- 2 利用する機能にあわせた設定を行う
 - ・ 休止状態を利用するための設定を行う場合
「休止状態」タブをタップして、「休止状態を有効にする」にチェックが付いていることを確認してください。
 - ・ スタンバイ状態を利用するための設定を行う場合
手順3に進んでください。
- 3 「詳細設定」タブをタップ
- 4 「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で、設定したい機能を選択する
- 5 「適用」ボタンをタップして、「OK」ボタンをタップ

電源設定を選択する

- 1 「スタート」ボタン 「コントロール パネル」をタップし、「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をタップ
- 2 「電源設定」タブをタップ

3 「電源設定」欄で定義されている設定を選択するか、または画面の下段でそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力は何も行われないうまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間、何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、本機がスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間、何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、本機が休止状態になり、電源が切れます。

メモ

画面の下段の「**の電源設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだ設定が表示され、それぞれの項目欄には、設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しい設定を作成することもできます。

4 「適用」ボタンをタップして、「OK」ボタンをタップ

電源設定を作成する

本機の利用状態にあわせて、電源設定を新たに登録することができます。

1 「電源設定を選択する (p.35) の手順1 ~ 2を行う

2 画面の下段でそれぞれの時間を設定する

3 「電源設定」欄の「名前を付けて保存」ボタンをタップ

4 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをタップ
これで、新しい設定が登録されました。

5 「適用」ボタンをタップして、「OK」ボタンをタップ

作成した設定は「電源設定」欄で選択できるようになります。

電源の自動操作

タイマ(電源オプション) LANからのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

✓チェック!!

タイマ、LANの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、タブレットPC用ペンで液晶ディスプレイをタップすることによって表示されます。

タイマ機能(電源オプション)

設定した時間を経過しても、タブレットなどからの入力、またはハードディスクへのアクセスなどが無い場合に、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態や休止状態にする機能です。工場出荷時は、次のように設定されています。

	モニタの電源を切る	ハードディスクの電源を切る	システムスタンバイ	システム休止状態
ACアダプタで使用中	約15分	約30分	約20分	約3時間
バッテリーで使用中	約2分	約5分	約15分	約2時間

参照▶ タイマ機能の時間の設定について 「省電力機能の設定をする」の「電源設定を選択する」(p.35)

リモートパワーオン機能(内蔵LAN機能による電源操作)

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応した本機の電源を操作する機能です。

参照▶ リモートパワーオン機能について 「LAN(ローカルエリアネットワーク)」の「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(p.70)

Intel SpeedStep®テクノロジー

本機では、電源の種類やCPUの動作負荷によって、動作性能を切り替えることができます。

Intel SpeedStep®テクノロジーは、「スタート」ボタン「コントロールパネル」をタップし、「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をタップして表示される画面で設定を行ってください。

タブレット

タブレットPC用ペン

各部の名称

・タブレットPC用ペン(小)



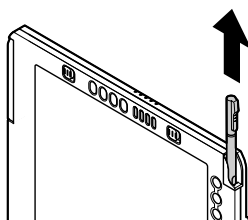
・タブレットPC用ペン(大)



取り出しと収納

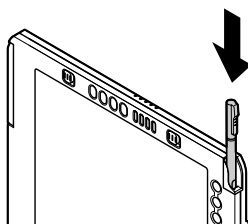
タブレットPC用ペン(小)は、本体に収納できます。

タブレットPC用ペン(小)の取り出し



タブレットPC用ペン(小)の収納

タブレットPC用ペンと本体のくぼみがあうように差し込んでください。



ペン先の交換

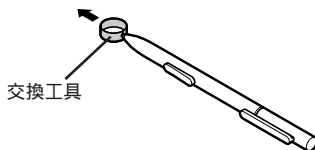
タブレットPC用ペン(大)のペン先がすり減り、操作がしにくくなった場合は、次の手順でペン先を交換してください。



チェック!!

タブレットPC用ペン(小)のペン先は交換できません。

1 交換工具でペン先をはさみ、引き抜く



2 新しいペン先をペン先に差し込む 向きに注意し、奥までしっかりと差し込んでください。

タブレットの使い方

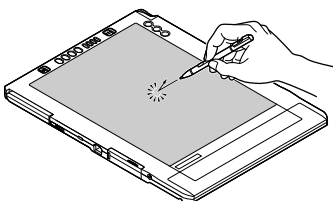
基本的な操作

ポインタの移動

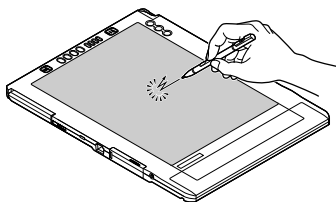
液晶ディスプレイのポインタを移動させたい位置にタブレットPC用ペンを近づけると、ポインタが移動します。

タップとダブルタップ

アイコンやフォルダにタブレットPC用ペンで触れ、すぐに離す操作をタップと呼び、マウスのクリックと同じように機能します。また、タブレットPC用ペンですばやく2回触れる操作をダブルタップと呼び、マウスのダブルクリックと同じように機能します。




タップ



ダブルタップ

プレス アンド ホールド

タブレットでマウスの右クリックにあたる操作を行う場合は、「プレス アンド ホールド」という操作をします。プレス アンド ホールドは次の手順で行います。

- 1 タブレットPC用ペンで、液晶ディスプレイの右クリックを行いたい部分に触れ、動かしたり離したりせず、しばらくそのままにする
- 2 ポインタの近くに  が表示されたら、タブレットPC用ペンを離す

メモ

タブレットPC用ペンのボタンを押したままタップすることでも、右クリックにあたる操作を行うことができます。

ドラッグ

液晶ディスプレイにタブレットPC用ペンで触れ、そのままペンを離さずに動かすことでドラッグをすることができます。

メモ

これらの操作は、「タブレットとペンの設定」で変更することができます。

タブレットとペンの設定

タブレットとペンをより使いやすく設定することができます。

タブレットとペンの設定は、「スタート」ボタン「コントロール パネル」をタップし、「プリンタとその他のハードウェア」「タブレットとペンの設定」をタップすると表示される「タブレットとペンの設定」で行います。

「タブレットとペンの設定」では、タブレットやペンの動作、画面の向き、本体のボタンの設定の変更などを行えます。詳しくは、「タブレットとペンの設定」のヘルプをご覧ください。

タブレットを使用するときの注意

- ・本機のタブレットは電磁誘導を用いています。次のような、強力な磁界、磁界が発生している場所では、タブレットが誤動作する場合があります。
 - AMラジオ基地局、中継局のアンテナの近く
 - 強力な電磁界ノイズを発生させる一部のCRTディスプレイの近く誤動作した場合でも、強力な磁界、磁界が発生している場所から離れればタブレットは正常に動作するようになります。
- ・タブレットPC用ペンには、ペン先のタッチを検出するための圧力センサーが内蔵されています。落下などの強い衝撃やペン先への強い圧力、水に濡らすことなどは、故障や破損の原因となるので注意してください。

文字入力のしかた

本機で文字を入力する場合は、Tablet PC入力パネルで行います。

Tablet PC入力パネルは次の方法で起動できます。

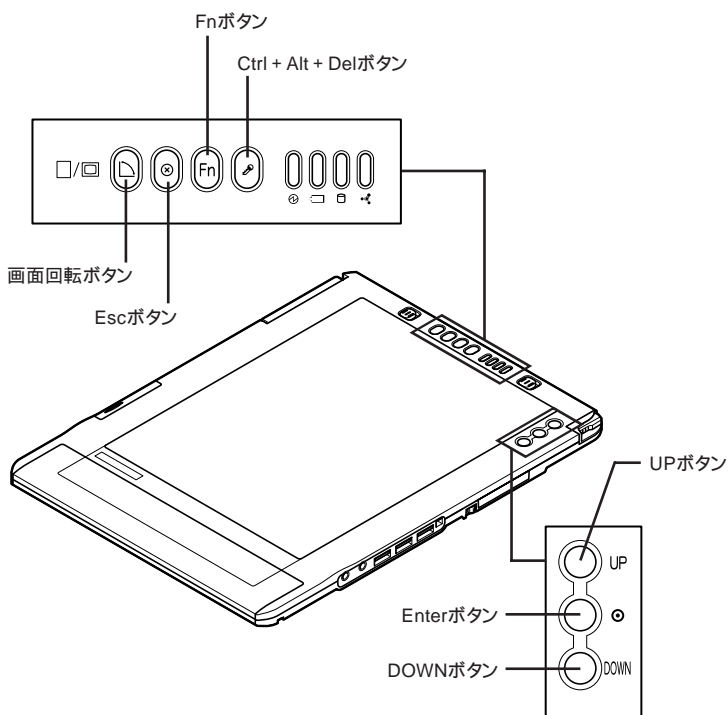
- ・タスクバーのをタップする
- ・液晶ディスプレイに、ポインタが動かせるくらいまでタブレットPC用ペンを近づけ、素早く数回振る

Tablet PC入力パネルの詳しい操作については、Tablet PC入力パネルの「ヘルプ」「トピックの検索」をタップして表示されるヘルプをご覧ください。

ボタン

ボタンの名称と機能


ボタンの名称



ボタンの機能

本機のボタンで、画面表示についての操作やキーボードからのキー入力と同等の操作ができます。

工場出荷時には、本体のボタンには次の機能が設定されています。

ボタン	機能
画面回転ボタン	一度押すごとに、画面の表示を右に90度回転します。
Escボタン	【Esc】と同じ機能です。
Fnボタン	他のボタンと組みあわせて使用します。また、このボタンを続けて2回押すと、通知領域(タスクトレイ)の  をタップしたときのメニューが表示されます。
Ctrl+Alt+Delボタン	【Ctrl】+【Alt】+【Del】と同じ機能です。
UPボタン	【↑】と同じ機能です。
Enterボタン	【Enter】と同じ機能です。
DOWNボタン	【↓】と同じ機能です。

Fnボタンを使う

Fnボタンと他のボタンを組みあわせることで、次の機能を使うことができます。

ボタン	機能
Fnボタン + 画面回転ボタン	外部ディスプレイが接続されている場合に、外部ディスプレイに表示する/しないを切り替えます。
Fnボタン + Escボタン	【Alt】+【Esc】と同じ機能です。
Fnボタン + UPボタン	PageUpと同じ機能です。
Fnボタン + Enterボタン	【TAB】と同じ機能です。
Fnボタン + DOWNボタン	PageDownと同じ機能です。

ボタンの設定

ボタン操作を、より使いやすく設定することができます。

ボタンの設定は、「スタート」ボタン「コントロール パネル」をタップし、「プリンタとその他のハードウェア」「タブレットとペンの設定」をタップすると表示される「タブレットとペンの設定」で行います。

設定できるボタン操作や機能について詳しくは、「タブレットとペンの設定」のヘルプをご覧ください。

液晶ディスプレイ

本機の液晶ディスプレイの表示を調整する方法や、表示できる解像度と表示色について説明しています。

画面表示を調整する

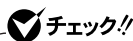
輝度を調整する

本機では、輝度を8段階で調整できます。また、電源の状態ごとに輝度を設定しておくことができます。輝度の調整は次の手順で行います。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロール パネル」をタップし、「プリンタとその他のハードウェア」「タブレットとペンの設定」をタップ
- 2 「画面」タブをタップ
- 3 「画面の明るさ」の「設定」で輝度を設定する電源の状態を選択する
- 4 「画面の明るさ」の「明るさ」で輝度を設定する
- 5 「OK」ボタンをタップ

これで、輝度の設定は完了です。

表示できる解像度と表示色



設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することがありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	本機の液晶ディスプレイにのみ表示	本機の液晶ディスプレイと別売の外部ディスプレイの同時表示
800×600	65,536色		
	1,677万色 ²		
1,024×768	65,536色 ¹		
	1,677万色 ²		
1,280×1,024	65,536色	-	
	1,677万色 ²	-	
1,600×1,200	65,536色	-	
	1,677万色 ²	-	
1,920×1,440	65,536色	-	
	1,677万色 ²	-	

1 : 本機の購入時の設定

2 : 本機の液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのデザイン機能により実現
: 画面表示を「横(プライマリ)」または「横(セカンダリ)」表示している場合のみ表示可能
: フルスクリーン表示可能

: デュアルディスプレイ時、外部ディスプレイ側のみで選択可能

- : 表示不可

参照 ▶ 解像度と表示色の変更について Windowsのヘルプ

画面回転機能

画面回転機能により、画面を右方向に90度、180度、270度回転させることができます。本機を使用する向きにあわせて画面を回転させたり、向かい側にいる人にプレゼンテーションを行う場合などに利用できます。

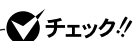
画面の回転するには次の方法があります。

画面回転ボタンを使う

工場出荷時の設定では、画面回転ボタンを押すごとに、画面が右に90度回転します。

「タブレットとペンの設定」で行う

「タブレットとペンの設定」(p.40)の「画面」タブで画面の向きを設定することができます。



画面を回転させた場合は、タブレットの調整を行ってください。

省電力機能

本機では電源の種類によって液晶ディスプレイの動作性能を切り替えることができます。ディスプレイの省電力機能の設定は次の手順で行います。

- 1 「スタート」ボタン「コントロールパネル」をタップし、「デスクトップの表示とテーマ」「画面」をタップ
- 2 「設定」タブをタップ
- 3 「詳細設定」ボタンをタップ
- 4 「POWERPLAY(™)」タブをタップ
- 5 「POWERPLAY(™)の設定(P)...」ボタンをタップ
- 6 バッテリー使用時の省電力設定をする
画面のスライダを左右に動かして設定します。左側に動かすとバッテリー優先、右に動かすとパフォーマンス優先になります。
- 7 「適用」ボタンをタップ
- 8 「OK」ボタンをタップ
- 9 「OK」ボタンをタップ
- 10 「OK」ボタンをタップ

これで、液晶ディスプレイの省電力機能の設定は完了です。

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイ (Dual Display) とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続時に、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるため、表示できる範囲が広がります。

メモ

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示する機能とは異なります。

チェック!!

- ・ 画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。
- ・ デュアルディスプレイ機能は、画面の表示方向を「横 (プライマリ)」または「横 (セカンダリ)」に設定している場合のみ使用可能です。
- ・ デュアルディスプレイ機能使用中は、本体のボタンで表示先の切り替えを行うことはできません。
- ・ 外部ディスプレイ側の操作には、USBマウスが必要です。

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン / オフ、プライマリ / セカンダリを次の手順に従って設定します。

1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる



別売の外部ディスプレイなどを接続するには、「PART2 周辺機器の接続と設定」の「外部ディスプレイ」(p.90)

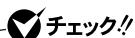
2 本機の電源を入れる

- 3 「スタート」ボタン、「コントロールパネル」をタップし、「デスクトップの表示とテーマ」「画面」をタップ
「画面のプロパティ」が表示されます。

4 「設定」タブをタップし、「詳細設定」ボタンをタップ

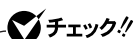
- 5 「ATI画面」タブをタップ
「モニターパネル」の接続状態が表示されます。

- 6 「モニター」のをタップしてにする



「パネル」をオフにすることはできません。

- 7 「モニター」の下の (プライマリ)または (セカンダリ)をタップ



「パネル」をセカンダリに設定することはできません。

接続が認識されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

- 8 「OK」ボタンをタップ

- 9 「OK」ボタンをタップ

設定が有効になり、デュアルディスプレイ機能を使う準備が終了しました。

デュアルディスプレイ機能を使う

デュアルディスプレイ機能を使うには、あらかじめ本機に別売の外部ディスプレイを接続しておいてください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」をタップし、「デスクトップの表示とテーマ」「画面」をタップ
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをタップ
- 3 「2」と表示されたディスプレイのイラストをプレス アンド ホールド
- 4 表示されたメニューから「接続」をタップ

5 「適用」ボタンをタップ

「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか?」と表示された場合は、「はい」をタップしてください。

6 「OK」ボタンをタップ

これでデュアルディスプレイ機能を使用することができます。

デュアルディスプレイ機能を解除する

「デュアルディスプレイ機能を使う」(p.48)と同様の手順を行って解除してください。



ハードディスク

ハードディスクとはWindowsやアプリケーションなどのソフトウェアや、作成したデータを磁気的に記録して、読み出すための装置です。

ハードディスク使用上の注意

ハードディスクは、非常に精密に作られています。特に、データの読み書き中（アクセスランプの点灯中）には、少しの衝撃が故障の原因になる場合がありますので注意してください。


ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは、再セットアップしても元通りにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどの、ハードディスク以外の媒体に定期的にバックアップ（コピー）をとっておくことをおすすめします。

領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

ここでは、ハードディスクの拡張パーティションの作成と論理ドライブの作成について説明します。プライマリパーティションの作成方法などについては、「ディスクの管理」のヘルプをご覧ください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロール パネル」をタップし、「パフォーマンスとメンテナンス」「管理ツール」をタップ
「管理ツール」が表示されます。
- 2 「コンピュータの管理」をダブルタップ
「コンピュータの管理」が表示されます。
- 3 画面左側にあるコンソール ツリーの中の「ディスクの管理」をタップ
表示された画面で、ハードディスクの容量や領域、ファイルシステムを確認してください。

 チェック!!

「ディスクのアップグレードと署名ウィザードの開始」の画面が表示された場合は、「キャンセル」ボタンをタップしてください。

4 画面右下に表示されている「未割り当て」を選んでプレス アンド ホールド

 メモ

ハードディスクに未割り当ての部分がない場合は表示されません。すでに使用しているドライブのパーティションの削除などについては、「コンピュータの管理」のヘルプをご覧ください。

5 表示されたメニューから「新しいパーティション」をタップ 「新しいパーティション ウィザード」が表示されます。


6 「次へ」ボタンをタップ

7 「拡張パーティション」を選択して、「次へ」ボタンをタップ 拡張パーティションとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

8 作成する拡張パーティションのサイズを入力して「次へ」ボタンをタップ

9 「完了」ボタンをタップ 指定されたサイズのパーティションが作成されます。 パーティションを複数作成する場合は手順4～9を繰り返してください。 割り当てられた領域は、「ディスクの管理」では「空き領域」と表示されます。続いてフォーマットを行います。

10 画面右下に表示されている「空き領域」を選んでプレス アンド ホールド

 チェック!!

すでに使用しているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存していたデータが全て消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

11 表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」をタップ
「新しいパーティション ウィザード」が表示されます。

12 「次へ」ボタンをタップ

13 「次へ」ボタンをタップ
論理ドライブとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されま
す。

14 作成する論理ドライブのサイズを入力し、「次へ」ボタンをタップ

15 表示されたドライブ文字の割り当てを確認して「次へ」ボタンを
タップ
「パーティションのフォーマット」が表示されます。

16 フォーマットの設定を確認して「次へ」ボタンをタップ

メモ

必要に応じてフォーマットの設定を変更してください。

フォーマットが始まります。

17 「完了」ボタンをタップ
複数のドライブをフォーマットしたい場合は、手順10～17を繰り返して
ください。

これで、領域の確保とフォーマットは完了です。

ハードディスクのメンテナンス


本機には、ハードディスクの障害を検出したリ、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。

ハードディスクに障害や断片化があった場合、可能な範囲で修復することができます。

参照▶ ハードディスクのメンテナンスについて 『活用ガイド ソフトウェア編』の「メンテナンスと管理」の「ハードディスクのメンテナンス」の「その他のメンテナンス」

ハードディスクの信頼性機能

StandbyDisk Solo RB

 **チェック!!**

StandbyDisk Solo RBは、VersaPro Jシリーズには添付されていません。

StandbyDisk Solo RBは、ハードディスク内にある第1パーティション(Cドライブ)の使用領域とほぼ同じ容量をバックアップ先(以後スタンバイ・エリア)として同パーティション内に確保し、使用領域のバックアップを行います。稼働中のシステムに障害が起きた際、スタンバイ・エリアからシステムを起動することで、ハードウェア障害であるか、あるいはソフトウェア障害であるかを絞り込むことが可能です。

参照▶ 『活用ガイド ソフトウェア編』の「アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk Solo RB」

フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブの取り付け方と取り外し方

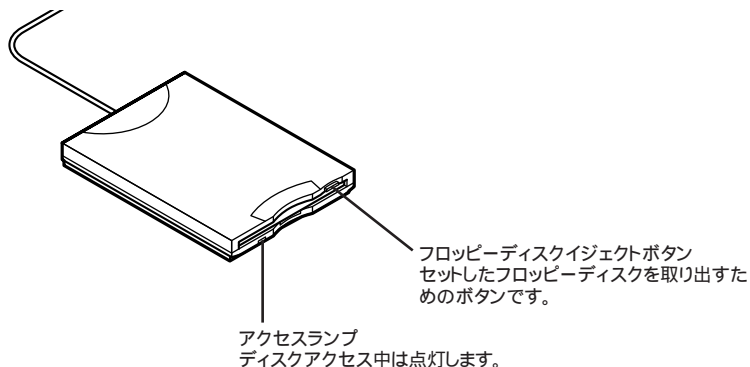
本機でフロッピーディスクドライブを使用する場合は添付、または別売のフロッピーディスクドライブを接続する必要があります。

添付、または別売のフロッピーディスクは次の通りです。

- ・ USBフロッピーディスクドライブ (PC-VP-BU21) (添付、または別売)

参照 USBコネクタ使用時の注意や機器の取り付け / 取り外し 「PART2 周辺機器の接続と設定」の「USBコネクタ」(p.98)

各部の名称と役割



使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。
フロッピーディスクのフォーマットについては、Windowsのヘルプをご覧ください。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フロッピーディスク (2DD)	640KB	×	×	×
	720KB		×	×
フロッピーディスク (2HD)	1.2MB ¹		×	×
	1.44MB			

○ : 使用可能

× : 使用不可

1: 1.2MBには1.21MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1,024バイト/セクタ)の2種類があります。
1.25MB(1,024バイト/セクタ)はPC-9800シリーズでサポートしているモードです。

使用上の注意

- ・「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください(これはコマンドプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です)。
- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、アクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

CD/DVDドライブ

CD/DVDドライブの接続のしかたと取り外し方

本機でCD-ROMを使用する場合は添付、または別売のCD/DVDドライブを接続する必要があります。

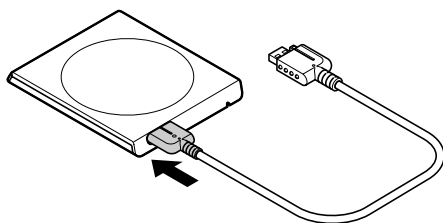
添付、または別売のCD/DVDドライブは次の通りです。

- CD-ROMドライブ(PC-VP-BU12) (添付、または別売)
- CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(PC-VP-BU14) (添付、または別売)
- DVDスーパーマルチドライブ(PC-VP-BU24) (添付、または別売)

接続のしかた

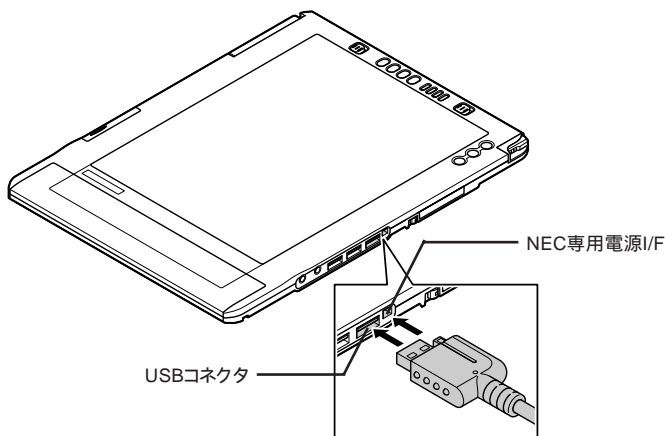
CD/DVDドライブをお使いになるには、以下の手順で本機に接続してください。

- 1 CD/DVDドライブ背面に、CD/DVDドライブ用ケーブルの マークのある方のプラグに接続する
プラグの向きに注意して、差し込んでください。



2 CD/DVDドライブ用ケーブルのUSBコネクタのある方のプラグを、本機の左側面のUSBコネクタとNEC専用電源I/Fに接続する

プラグの向きに注意して、差し込んでください。



参照 USBコネクタ使用時の注意 「PART2 周辺機器の接続と設定」の「USBコネクタ」(p.98)

ドライブの取り外し方

CD/DVDドライブを取り外す手順については、「PART2 周辺機器の接続と設定」の「周辺機器の利用」(p.86)をご覧ください。

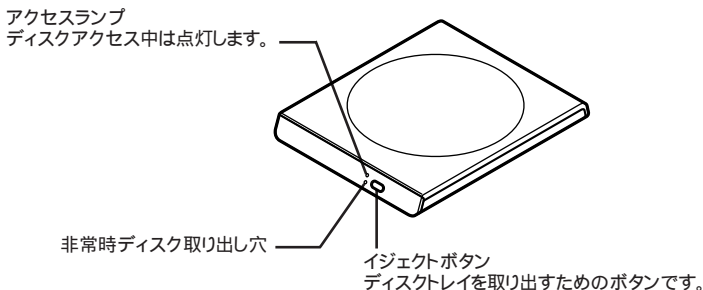
CD/DVDドライブを縦置きで使う

本機に添付のCD/DVDドライブは縦置きで使用することもできます。CD/DVDドライブを縦置きで使用する場合は、添付のCD/DVDドライブ用スタンドにCD/DVDドライブを立てて使用してください。

各部の名称と役割

メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによってイラストと多少異なることがあります。



使用できるディスク

再生可能なディスク

音楽CD、ビデオCD、フォトCD、DVD-Videoディスク¹

読み込み可能なディスク

CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM¹、DVD-RAM¹、DVD-R¹、
DVD-RW¹、DVD+R²、DVD+RW²

書き込み可能なディスク


CD-R¹、CD-RW¹、DVD-R²、DVD-RW²、DVD+R²、DVD+RW²、
DVD-RAM²


書き換え可能なディスク

CD-RW¹、DVD-RW²、DVD+RW²、DVD-RAM²

1: CD-R/RW with DVD-ROMモデルまたはDVDスーパーマルチモデルのみ


2: DVDスーパーマルチモデルのみ

 チェック!!

- DVD-Videoディスクは、リージョンコード(国別地域番号。日本は2です)によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD-Videoディスクについては、特にこの点に注意してください。
- 本機で書き込み、書き換えをしたメディアを他の機器で使用する場合、フォーマット形式や装置の種類などにより使用できない場合があります。
- 他の機器で書き込み、書き換えたメディアは、ディスク、ドライブ、記録方式などの状況により本機では記録再生性能を保証できない場合があります。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。
規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。
- 本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示すマークの入ったディスクを使用してください。
- Compact Discの規格外のディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。

使用上の注意

- CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- アクセスランプの点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。
- アクセスランプの点灯中は、CD/DVDドライブのケーブルを抜かないでください。データの破損や本機の故障の原因となる場合があります。また、ケーブルが抜ける原因となるので、アクセスランプの点灯中にCD/DVDドライブや本機を移動させないでください。
- ラベルが貼ってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じる場合があります。これは故障の原因となるため、ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。
- CD/DVDドライブにディスクをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用する

るメディアによって異なります。このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをタップしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上のをタップしてください。

非常時のディスクの取り出し方

停電やソフトウェアの異常動作などにより、CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、ドライブ背面に取り付けられているイジェクトピンを、非常時ディスク取り出し穴に押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。また、針金や太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

チェック!!

- CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使って取り出さないようにしてください。
- 本機のCD/DVDドライブに取り付けられているイジェクトピンは、本機のCD/DVDドライブの非常時取り出し以外の用途には使用しないでください。

サウンド機能

音量を調節する

ボリュームコントロールを使う

Windowsの「ボリュームコントロール」で音量を調節することができます。ボリュームコントロールは次のようにして開くことができます。

「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」
「エンターテイメント」 「ボリューム コントロール」 をタップしてください。

参照 ▶ ボリュームコントロールについて Windowsのヘルプ

✓ チェック!!

ディスプレイの解像度を低解像度に設定している場合にボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールの全ての音源コントロールが表示されない場合や、右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。

このような場合には、ディスプレイの解像度を変更するか、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。

なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、いったんボリュームコントロールを終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

音楽CDを再生するには

本機のCD/DVDドライブは、音楽CDからのデジタル出力のみ使用可能です。CD/DVDドライブを使用して音楽CDを再生/録音する場合は、アナログではなく、デジタルで音楽CDを再生するように設定しておく必要があります。

次の手順で、音楽CDをデジタルで再生する設定になっていることを確認してください。

1 「デバイス マネージャ」を開き、「DVD/CD-ROMドライブ」をダブルタップ

参照 ▶ 「デバイス マネージャ」の開き方 「デバイス マネージャの開き方」(p.6)

2 表示されるCD/DVDドライブをダブルタップ

3 「プロパティ」タブをタップ

4 「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」にチェックが付いていることを確認する

5 「OK」ボタンをタップ

6 「デバイス マネージャ」を閉じる

7 「OK」ボタンをタップ

再生しているプレーヤーが「Windows Media Player」の場合は、以下の手順を行ってください。

8 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「Windows Media Player」をタップ

Windows Media Playerが起動します。

9 メニューバーの「ツール」 「オプション」をタップし、「デバイス」タブをタップ

メニューバーが表示されていない場合は、をタップしてください。

10 「デバイス」欄に表示されているCD/DVDドライブを選択して「プロパティ」ボタンをタップし、「オーディオ」タブをタップ

11 「再生」欄の「デジタル」が選択されていることを確認する

12 「OK」ボタンをタップ


13 「OK」ボタンをタップ

14 「Windows Media Player」を閉じる

これで、音楽CDをデジタルで再生する設定は完了です。

マイクの設定をする


「SoundMAX コントロールパネル」でマイクの設定を行うことができます。マイクの設定では、お使いのマイクの指定や、マイクでの録音時にノイズを除去する「ノイズ除去」の設定、録音ボリュームの設定などが行えます。マイクの設定を行う場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 画面右下の通知領域にあるをダブルタップ
「SoundMAX コントロールパネル」が表示されます。

2 「マイク」タブをタップ

3 次の操作を行う

- ・ スタンドマイクをお使いの場合
「標準マイク」を選択する
- ・ ヘッドセットマイクまたは、モノラルヘッドフォンマイクをお使いの場合
「ヘッドセット」を選択する
- ・ マイクノイズを除去する場合
「ノイズ除去」にチェックを付ける
- ・ 自動的に最適な音にする場合
「マイクの設定ウィザード」ボタンをタップして表示された画面で声にあわせてマイクを設定する

「SoundMAX Superbeam™ マイク」の設定について詳しくは、「SoundMAX FAQs」をご覧ください。「SoundMAX FAQs」は、通知領域のをプレス アンド ホールドして表示されるメニューから「SoundMAX FAQs」をタップして表示してください。

4 設定が完了したら「OK」ボタンをタップ

これで、マイクの設定は完了です。

MIDIの設定をする

「SoundMAX コントロールパネル」でMIDIの演奏モードを次のいずれかに設定することができます。

- Microsoft GS Wavetable SW Synth
- SoundMAX XGLite
- SoundMAX General MIDI

MIDIの演奏モードの設定を行う場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」をタップし、「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」「サウンドとオーディオデバイス」をタップ

「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」が表示されます。

2 「オーディオ」タブをタップ

3 「MIDI音楽の再生」の「既定のデバイス」欄でデバイスを選択する

- 「Microsoft GS Wavetable SW Synth」に設定する場合
▼をタップして「Microsoft GS Wavetable SW Synth」を選択する
- 「SoundMAX XGLite」, 「SoundMAX General MIDI」に設定する場合
▼をタップして「SoundMAX Wavetable Synth」を選択する

4 「OK」ボタンをタップ

「Microsoft GS Wavetable SW Synth」の設定はこれで終わりです。

「SoundMAX XGLite」, 「SoundMAX General MIDI」に設定する場合は、次の手順に進んでください。

5 画面右下の通知領域のをダブルタップ

「SoundMAX コントロールパネル」が表示されます。

6 「MIDIミュージックシンセサイザ」タブをタップ

7 「シンセサイザのデフォルトのサウンド・セット」でサウンドセットを設定する

- 「SoundMAX XGLite」に設定する場合
▼をタップして「SoundMAX XGLite」を選択する
- 「SoundMAX General MIDI」に設定する場合
▼をタップして「SoundMAX General MIDI」を選択する

8 「OK」ボタンをタップ

これで、MIDIの設定は完了です。

LAN(ローカルエリアネットワーク)

LANへの接続

本機では、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

メモ

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境にも接続できます。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやLANケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

初めてネットワークシステムを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

既存のネットワークに、端末として本機を接続する場合について説明します。本機をネットワークへ接続するには、LANケーブルが必要です。本機に内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用する場合は、必ずカテゴリ5以上のLANケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用する場合は、カテゴリ3以上のLANケーブルを使用してください。

チェック!!

本機を稼働中のネットワークに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定とLANケーブルの接続を行ってください。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 LANケーブルの一端を、本機のLAN用モジュラーコネクタ(品)に奥までしっかり差し込む

参照 LAN用モジュラーコネクタについて 「各部の名称」(p.17)

- 3 LANケーブルのもう一方を、ネットワーク(ハブやルータなど)に接続する

これで、LANケーブルの接続は完了です。

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- ・システム運用中は、ハブからLANケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にLANケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windowsを再起動してください。
- ・LAN回線を接続してネットワーク通信をする場合は、本機にACアダプタを接続して使用するようになしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ・スタンバイ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピー等の通信動作が終了してからスタンバイ状態または休止状態にしてください。
また、使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態または休止状態を使用してください。
- ・ネットワークでの通信中にはスタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- ・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

ユニバーサル管理アドレスについて

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。次のコマンドを入力することで、内蔵LANまたは無線LANのユニバーサル管理アドレスを確認することができます。

コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、【Enter】を押してください。

```
net config workstation
```

(アダプタがアクティブな場合、「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の()内に表示されます。)

```
ipconfig /all
```

(「physical address」として表示されます。)

本機の運用管理

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、資源管理および遠隔操作や保守を行うための機能があります。システム管理者が効率よくパソコンをマネジメントするために、次のような手段や機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウイルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)
- ・システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源やシステムを遠隔操作できる

このような手段や機能を利用するために、次のようなマネジメント(運用管理)機能を備えています。

- ・ネットワークブート
- ・リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)

ネットワークブート

管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

- ・ OSインストール
- ・ BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- ・ BIOS設定変更

ネットワークブートを使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティで設定を行ってください。

✓ チェック!!

ネットワークブートを使用するには、別途PXEに準拠した運用管理ソフトが必要です。

- 1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたらDOWNボタンを数回押す
BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

参照 BIOSセットアップユーティリティについて 「PART3 システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.104)

- 2 「Boot」メニューの「Network Boot」を「Enabled」に設定する

これで、ネットワークブートを使用するための設定は完了です。

メモ

上記の作業を行う際に、ネットワークからの起動が必要になった場合は、本機起動時に「NEC」のロゴ画面でUPボタンを数回押すことでネットワークブートが可能になります。

✓ チェック!!

UPボタンを押しても、ネットワークブートができないことがあります。この場合は、UPボタンを押す間隔を変えてください。

リモートパワーオン機能 (Remote Power On機能)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能は次の通りです。

- ・電源の切れている状態から電源を入れる(パワーオン)
- ・スタンバイ状態(サスペンド)や休止状態(ハイバネーション)からの復帰

本体およびLANボードがリモートパワーオンに対応しているパソコンで、リモートパワーオン機能を使うように設定している場合は、本体の電源が切れているときも、LANボードの一部は通電されています。

管理者パソコンはパワーオンを指示する特殊なパケット(Magic Packet)を離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコン(本機)の専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理者パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。リモートパワーオン機能を利用するためには、管理者パソコンにMagic Packetを送信するためのソフトウェア(ESMPRO/Client Managerなど)のインストールが必要です。また、本機のBIOS設定が必要になります。


電源が切れている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)からリモートパワーオン機能を利用するためには、次の設定を行ってください。

チェック!!

- ・リモートパワーオン機能の設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合に比べて、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、リモートパワーオン機能の設定は行わずに購入時の設定で使用してください。
- ・リモートパワーオン機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続した状態で本機を休止状態または電源が切れている状態にしてください。

電源の切れている状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

- 1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたらDOWNボタンを数回押す
BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

 参照 ▶ BIOSセットアップユーティリティについて「PART3 システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.104)

2 「Advanced」メニューの「Remote Power On」を「Enabled」に設定する

これで、設定は完了です。

スタンバイ状態または休止状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

✓チェック!!

- ・ 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能を使用して電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して本機を起動し、もう一度正しい方法で電源を切ってください。
- ・ コンピュータの管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントで本機にログオンしてください。

1 「デバイス マネージャ」を開き、「ネットワークアダプタ」をダブルタップ

参照 ▶ 「デバイス マネージャ」の開き方 「デバイス マネージャの開き方」(p.6)

2 表示されたLANアダプタをダブルタップ

3 「電源の管理」タブをタップ

4 以下の設定を行う

- ・ 「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」にチェックが付いていることを確認します。
- ・ 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを付けます。
- ・ 「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを付けます。

これで、設定は完了です。



無線LAN機能

無線LANモデルでは、無線LANによって、離れているコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここでは、無線LANへの接続を簡単に説明します。

無線LAN使用上の注意

- ・通信速度・通信距離は、無線LAN対応機器や電波環境・障害物・設置環境などの周囲条件によって異なります。
- ・電波の性質上、通信距離が離れるに従って通信速度が低下する傾向があります。より快適にお使いいただくために、無線LAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- ・ネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイント(以下アクセスポイント)などが必要です。
- ・医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。
- ・ネットワークとの通信中は、本機を休止状態やスタンバイ状態にしないでください。
- ・ネットワーク通信をすると、バッテリーのみで使用可能な時間が短くなります。長時間の通信をするときは、本機にACアダプタを接続しコンセントからの電源で使用してください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
メールの内容
等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、NEC121コンタクトセンター(フリーコール:0120-977-121)までお問い合わせ下さい。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

本機で利用可能なセキュリティ

✓チェック!!

- ・以下のセキュリティについての設定をする場合、使用するアクセスポイントなどもこれらの設定に対応している必要があります。
- ・これらの設定は危険性をより低くするための手段であり、安全性を100%保証するものではありません。

盗聴(傍受)を防ぐ

WEP機能を使用して暗号キーを設定すると、同じ暗号キーを使用している通信機器間の無線LANの通信のデータを暗号化できます。

ただし、暗号キーを設定していても、暗号キー自体を第三者に知られたり、暗号解読技術によって暗号を解読されたりする可能性があるため、設定した暗号キーは定期的に変更することをおすすめします。

不正アクセスを防ぐ

- ・アクセスポイントと通信機器の両方に任意のSSID(ネットワーク名)を設定することで、同じSSIDを設定していない通信機器からの接続を回避できます。ただし、SSIDを自動的に検出する機能を持った機器を使用されると、SSIDを知られてしまいます。これを回避するには、アクセスポイント側でSSIDを通知しないように、SSIDの隠蔽の設定をする必要があります。
- ・接続するパソコンなどのMACアドレス(ネットワークカードが持っている固有の番号)をアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外はアクセスポイントに接続できなくなります(MACアドレスフィルタリング)。

より高度なセキュリティ設定を行う

Wi-Fi Allianceが提唱するWPA(Wi-Fi Protected Access)機能を利用します。IEEE802.1X/EAP(Extensible Authentication Protocol)規格によるユーザ認証および、従来のWEP機能に比べて大幅に暗号解読が困難とされる暗号方式TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)を使用することで、より高度なセキュリティを行うことができます。

✓チェック!!

WPA機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器およびネットワーク環境もWPA機能をサポートしている必要があります。

無線LAN製品との接続

本製品と接続できる無線LAN製品には、無線LAN内蔵PC、無線LANアクセスポイント、無線LAN周辺機器などがあります。

接続できる製品については、NECの企業向け情報機器関連総合サイト「NEC 8番街 (<http://nec8.com>)」の「商品の適合検索」でご確認ください。

1. 「サポート情報」をタップ
2. 左側のメニューの「商品情報・消耗品」にマウスポインタをあわせる
3. 表示されたメニューの「PC本体 / オプション検索 (新旧モデル情報 / 適合情報)」をタップ
4. 「商品の適合検索」をタップ

無線LAN機器同士の接続互換性については、業界団体Wi-Fi Allianceによる「Wi-Fi® 認定」を取得している同じ規格の製品を購入されることをおすすめいたします。

無線LANの設定

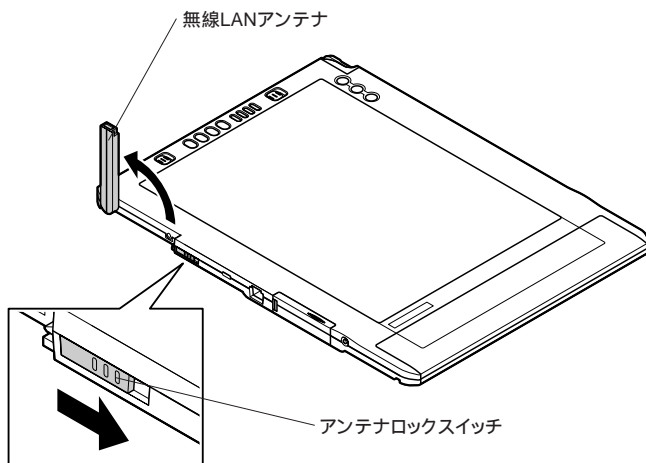
「VersaPro / VersaPro J電子マニュアル」の「無線LAN (IEEE802.11a/b/g)」について、[こちら](#)をご覧ください。設定を行ってください。

無線LANアンテナを立てる

電波の状態が悪いときなど、無線LANアンテナを立てて使用することで状態が改善する場合があります。

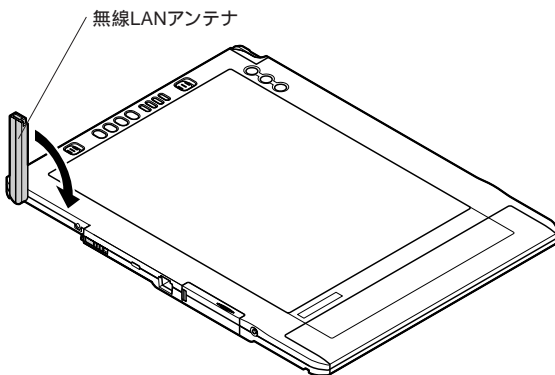
アンテナを立てる

- 1 アンテナロックスイッチを矢印の方向にスライドさせたまま、無線LANアンテナを立てる



アンテナを戻す

- 1 無線LANアンテナを矢印の方向に、カチッと音がするまで倒す



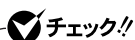
セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。

- ・ パスワード
- ・ ハードディスクのパスワード



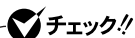
チェック!!

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。

パスワード

パスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機のパスワードはBIOSセットアップユーティリティで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・ BIOSセットアップユーティリティの起動と設定変更
- ・ 本機の起動



チェック!!

NECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。

参照 ▶ NECのお問い合わせ先について 『保証規定&修理に関するご案内』

パスワードの種類

本機で設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに本機の管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、本機の使用者を制限するために設定します。

パスワードを設定しておくことで、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップユーティリティを起動できなくなります。また、スーパーバイザパスワード入力タイミングを、本機の起動時に設定することもできます。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに本機の使用者のためのパスワードで、スーパーバイザパスワードで本機を管理している管理者が、本機の使用者の使用できる機能を制限するためのものです。

パスワードを使った管理

例えば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知するようにします。このように設定しておくことで、通常の利用者はBIOSセットアップユーティリティで設定可能な項目が制限されます。

パスワードを忘れてしまった場合は

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照 解除処置について 『活用ガイド ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「電源を入れたとき」

ハードディスクのパスワード

ハードディスクのパスワードとは

本機はハードディスクにパスワードを設定することで、本機以外のパソコンでのハードディスクの不正使用を防止することができます。

本体のパスワードと併用することにより、ハードディスク内のデータへの不正アクセスを防ぐことが可能です。

ハードディスクのパスワードは、BIOSセットアップユーティリティで設定します。

✓ チェック!!

- ・ ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでもロックは解除できません。お客様ご自身で作成されたデータは二度と使用できなくなり、またハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう、十分注意してください。
- ・ ハードディスクのパスワードは、本機のハードディスクが本機以外のパソコンで不正使用されることを防止するためのものであり、本機の不正使用を防止するものではありません。内部データへの不正アクセス防止のためにも、本機の他のセキュリティ機能とあわせてお使いください。

パスワードの種類

本機で設定可能なハードディスクのパスワードには、「マスタパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

マスタパスワード

マスタパスワードはロック解除専用のパスワードです。ハードディスクのパスワードを最初に設定するときに入力します。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、ハードディスク認証を行うために設定します。ユーザパスワードを設定することで、本機以外でのハードディスクの不正使用を防止できます。

✓ チェック!!

マスタパスワードを設定しないとユーザパスワードを設定することはできません。


ハードディスクのロックを無効にする

本機の起動時にハードディスクがロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクのロックを無効にしてください。

チェック!!

ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでもロックは解除できません。お客様ご自身で作成されたデータは二度と使用できなくなり、またハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう、十分注意してください。

- 1** 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたらDOWNボタンを数回押す
BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

 **参照** BIOSセットアップユーティリティについて 「PART3 システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.104)

- 2** 「Security」メニューを選ぶ
- 3** 「Assign HDD Password」を選んで、「Enter」をタップ
ロック解除の画面が表示されます。
- 4** マスタパスワードを入力する
- 5** 「Enter」をタップ

以上でハードディスクのロックが無効になります。手順5の後にパスワード設定画面が表示されます。「パスワードの設定 / 変更」の手順に従って設定を行うか、「Esc」をタップしてキャンセルしてください。

その他のセキュリティ機能を使う

ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、正常に本機を起動することができなくなってしまいます。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。

ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止の設定は、BIOSセットアップユーティリティで行います。

参照▶ ハードディスクの起動セクタを保護する「PART3 システムの設定」の「BIOS セットアップユーティリティの使い方」(p.104)

盗難防止用ロック

別売のセキュリティケーブル(PK-SC/CA02)を利用することで、本機を机などに繋ぐことができますので、本機の盗難防止に効果的です。

参照▶ 盗難防止用ロックについて「各部の名称」(p.17)

✓ チェック!!

- ・ 当社製セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)は本機では使用できませんので注意してください。
- ・ セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

周辺機器の接続と設定

別売の周辺機器の取り付け / 取り外し方法や注意事項などを説明しています。

この章の読み方

次ページの「接続できる周辺機器」・「周辺機器の利用 (p.86)」を読んだ後に、目的にあわせて次に該当するページを読んでください。

この章の内容

接続できる周辺機器	84
周辺機器の利用	86
マウス	89
外部ディスプレイ	90
コンパクトフラッシュカード	95
USBコネクタ	98
スタンド	101

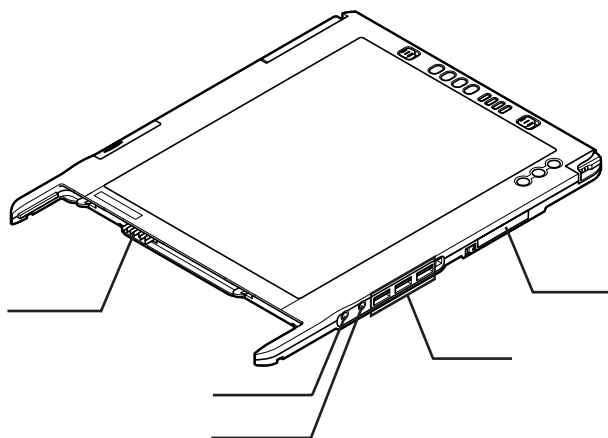
接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

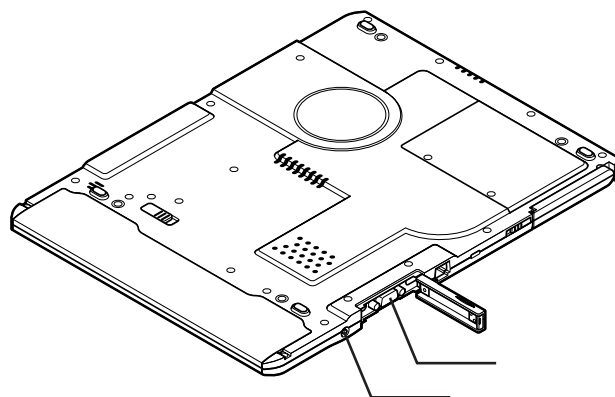
本体に接続できる周辺機器一覧

本機のそれぞれのコネクタや端子に接続できる周辺機器について説明します。

本体前面 / 右側面



本体背面 / 左側面



名称	接続できる周辺機器
USBコネクタ	USBマウス、USBキーボード、USBテンキーボード、USBカメラ、携帯電話、PHS端末など
マイク入力	マイクロフォンなど
ライン/ヘッドフォン共用出力	ヘッドフォン、オーディオ入力のあるAV機器
コンパクトフラッシュカードスロット	コンパクトフラッシュカードなど
外部ディスプレイコネクタ	外部ディスプレイなど
電源コネクタ	ACアダプタ
バッテリースロット	バッテリーパック



周辺機器の利用

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

周辺機器利用上の注意

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- ・ 周辺機器の取り付け / 取り外しをする際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
- ・ 本機がスタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)の場合は、周辺機器の取り付けや取り外しは行わないでください。このような場合は、いったん復帰させてデータを保存し、電源を切ってから取り付けや取り外しを行ってください。
- ・ 別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・ 周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書に従って正しく行ってください。
- ・ 周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえ用意してください。
- ・ 周辺機器を使用する際は、使用する周辺機器の取扱説明書をご覧ください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。このような場合は「デバイス マネージャ」でリソースが競合しないように設定を変更してください。

参照 リソースの競合について 『活用ガイド ソフトウェア編』の「トラブル解決 Q&A」の「周辺機器」

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバを本機にセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、本機と周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。

✓ チェック!!

デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルに従って、再度デバイスドライバを正しく組み込んでください。

デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

・「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

機器を本機に接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

メモ


本機には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。



・「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

機器を本機に接続した後に、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

周辺機器の取り外しと再接続

周辺機器の中でも、USB対応機器、コンパクトフラッシュカードなどは、本機の電源を入れたまま取り付け、取り外しができます。

ただし、画面右下の通知領域(タスクトレイ)にが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

- 1 画面右下の通知領域(タスクトレイ)にあるをダブルタップ
「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウが表示されます。
が表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。
- 2 取り外したい周辺機器名、コンパクトフラッシュカード名をタップして、「停止」ボタンをタップ
周辺機器名、コンパクトフラッシュカード名が表示されていない場合は、手順4へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」ウィンドウで取り外したい周辺機器名、コンパクトフラッシュカード名をタップして「OK」ボタンをタップ
画面右下の通知領域(タスクトレイ)に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「閉じる」ボタンをタップして、「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウを閉じる

これで周辺機器、コンパクトフラッシュカードを取り外すことができます。

同じ周辺機器を再接続する場合は、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージに従ってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待てば使用できます。

マウス

マウスを使用する

本機では、添付の光センサーUSBマウス(光センサーUSBマウス添付のモデルの場合)やUSBマウス(USBマウス添付のモデルの場合)が使用できます。

マウスが添付されていないモデルをお使いの場合でも、別売のUSBマウスを使用することができます。

マウスの設定方法

添付または別売の当社製USBマウスを使用する

本機に添付のUSBマウスおよび別売(オプション)のUSBマウスを使用する場合は、特に設定を行う必要ありません。そのままUSBコネクタに接続してください。

✓チェック!!

本機では、当社製USBマウスとタブレットを同時に使用できます。

参照 BIOSセットアップユーティリティについて「PART3 システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.104)

他社製のUSBマウスを使用する場合

他社製のUSBマウスを使用する場合は、他社製USBマウスのマニュアルをご覧ください。

✓チェック!!

本機では、他社製USBマウスとタブレットを同時に使用できます。

外部ディスプレイ

外部ディスプレイの接続

外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色

✓ チェック!!


- ・ お使いになる外部ディスプレイによっては、下の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。外部ディスプレイをご使用の際は、外部ディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。
- ・ 設定により、マニュアルに記載されていない解像度や周波数を選択できる場合がありますが、動作を保障するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度や周波数で使用してください。

別売の外部ディスプレイではデュアルディスプレイ使用時に、次の解像度と表示色を表示できません。

表示解像度 (ドット)	水平走査周波数 (KHz)	垂直走査周波数 (Hz)	表示色	
			65,536色	1,677万色
800×600	37.9	60		
	46.9	75		
	53.7	85		
1,024×768	48.4	60		
	60.0	75		
	68.7	85		
1,280×1,024	64.0	60		
	80.0	75		
	91.1	85		
1,600×1,200	75.0	60		
	93.8	75		
1,920×1,440	90.0	60		
	112.5	75		

:表示可能

外部ディスプレイの接続


- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 ディスプレイ用ケーブルを本機の外部ディスプレイコネクタ () に差し込んで、ネジを回して固定する

参照▶ 外部ディスプレイコネクタの位置について 「PART1 本体の構成各部」の「各部の名称」(p.17)

- 3 外部ディスプレイの電源ケーブルを、電源コネクタに差し込む
詳しくは外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

これで、外部ディスプレイの接続は完了です。

プロジェクタの接続

本機の外部ディスプレイコネクタ () には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。別売のプロジェクタの接続のしかたは、プロジェクタのマニュアルをご覧ください。また、使用する場合はプロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度(ドット)、垂直走査周波数(Hz)などを確認してください。

チェック!!

プロジェクタを接続して表示した場合、プロジェクタ側で正しく表示されない場合があります。その場合は「PART1 本体の構成各部」の「液晶ディスプレイ」の「デュアルディスプレイ機能を使う準備をする」(p.47)をご覧ください。また、「モニター」をセカンダリに設定してください。

表示するディスプレイを変更する



別売の外部ディスプレイなどを接続した場合、コントロールパネルまたは本体のボタンを使って画面の出力先を切り替えることができます。

✓チェック!!

- ・ 外部ディスプレイのみに表示することはできません。
- ・ 動画再生のソフトウェアを起動中は、画面の切り替えを行わないでください。画面の切り替えを行った場合は、動画再生のソフトウェアを再起動してください。

コントロールパネルで切り替える

コントロールパネルで画面の出力先を切り替えることができます。

- 1 「スタート」ボタン「コントロールパネル」をタップし、「デスクトップの表示とテーマ」「画面」をタップ
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをタップし、「詳細設定」ボタンをタップ
- 3 「ATI画面」タブをタップ
「モニターパネル」の接続状態が表示されます。
- 4 「モニター」の  をタップして  にする
- 5 「OK」ボタンをタップ

これで、画面の出力先の切り替えは完了です。

✓チェック!!

DVD-Videoディスク再生は「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。

本体のボタンで切り替える

Fnボタンを押しながら、画面回転ボタンを押すと画面の出力先が切り替わります。

✓チェック!!

デュアルディスプレイ機能使用時、またはコマンドプロンプトを全画面表示している状態では、本体のボタンでの画面の出力先の切り替えはできません。

ディスプレイにあわせて本機の設定をする

別売の外部ディスプレイ使用時に、表示されたメッセージが適切でない場合やプラグ&プレイに対応していないディスプレイを使用しているときは、次の操作を行ってください。

✓チェック!!

プラグ&プレイに対応したディスプレイを使用しても、ディスプレイの情報が反映されない場合があります。その場合も、次の操作を行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されている場合
ディスプレイのマニュアルをご覧ください、ドライバのインストールを行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されていない場合
次の手順で設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン「コントロールパネル」をタップし、「デスクトップの表示とテーマ」「画面」をタップ
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをタップし、「詳細設定」ボタンをタップ
- 3 「モニタ」タブをタップし、「既定のモニタ」を選択し、「プロパティ」ボタンをタップ
- 4 「ドライバ」タブをタップし、「ドライバの更新」ボタンをタップ
「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されます。

- 5 「ソフトウェア検索のため、Windows Updateに接続しますか?」と表示されたら、「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」ボタンをタップ
- 6 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、「次へ」ボタンをタップ
- 7 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをタップ
- 8 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外す
- 9 「製造元」と「モデル」を選択し、「次へ」ボタンをタップ
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「標準モニタの種類」を選択し、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。
- 10 「完了」ボタンをタップ
- 11 「閉じる」ボタンをタップ
- 12 「OK」ボタンをタップ
- 13 「OK」ボタンをタップ

これでディスプレイの設定が完了しました。

コンパクトフラッシュカード

使用上の注意

コンパクトフラッシュカードについて

- 使用できるコンパクトフラッシュカードについては、『はじめにお読みください』の「9 付録 機能一覧」をご覧ください。
- PC Card Standardに準拠していないコンパクトフラッシュカードは使用できません。対応していないカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

コンパクトフラッシュカードの取り扱いについて

コンパクトフラッシュカードは精密にできています。カードまたはスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- 高温多湿あるいは低温の場所に放置しない
- 濡らさない
- 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしない
- ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えない
- コンパクトフラッシュカードの端子部分に金属などを差し込まない

コンパクトフラッシュカードのセットのしかたと取り出し方

コンパクトフラッシュカードをセットする / 取り出すときの注意

- コンパクトフラッシュカードをセットする / 取り出す際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
- コンパクトフラッシュカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- 本機がスタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)の場合は、セットしたり取り出したたりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。

- ・コンパクトフラッシュカードスロットにセットしたときにスロットからはみ出るコンパクトフラッシュカードは、本機を持ち運ぶ際には必ず取り出してください。コンパクトフラッシュカードや本機の故障の原因になります。
- ・コンパクトフラッシュカードを取り出すとき以外はイジェクトボタンを収納しておいてください。コンパクトフラッシュカードやコンパクトフラッシュカードスロットの故障の原因になります。
- ・アプリケーションを使用中は、セットしたり取り出したりしないでください。

コンパクトフラッシュカードのセットのしかた

- 1 差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、スロットに水平に静かに差し込む

✓ チェック!!

間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損させるおそれがあります。

参照▶ コンパクトフラッシュカードスロットの位置について 「PART1 本体の構成各部」の「各部の名称 (p.16)」

✓ チェック!!

- ・イジェクトボタンが突き出た状態でカードを差し込むと、イジェクトボタンが出た状態のままになります。カードを差し込むときは、イジェクトボタンをカチッと音がするまで押し込んで、収納された状態にしてから差し込んでください。
- ・コンパクトフラッシュカードスロットにカードをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをタップしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の **X** をタップしてください。

コンパクトフラッシュカードの取り出し方

- 1 「周辺機器の取り外しと再接続 (p.88) の手順1～4を行う
- 2 イジェクトボタンを押す
ボタンが手前に飛び出します。
- 3 もう一度イジェクトボタンを押す
- 4 コンパクトフラッシュカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

コンパクトフラッシュカードの割り込みレベルの設定

コンパクトフラッシュカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。コンパクトフラッシュカードのマニュアルと「PART4 付録」の「割り込みレベルとDMAチャンネルについて (p.112) をご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「周辺機器」の「別売の周辺機器を取り付けたが動作しない。別売の周辺機器を取り付けたらパソコンが起動しなくなった。他の機能が使えなくなった」をご覧ください、重ならないように設定を変更してください。

USBコネクタ

USB対応機器は、一般の周辺機器と異なり、本機の電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

USBとは

USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。

接続できるおもなUSB対応機器として、マウス、プリンタ、デジタルカメラ、携帯電話やPHSなどがあります。

メモ

・USB対応機器の、本機での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。また、各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB対応機器の情報は、NECの企業向け情報機器関連総合サイト「NEC 8番街」(<http://nec8.com>)の「商品情報検索」でご確認ください。

1. 「サポート情報」をタップ
 2. 左側のメニューの「商品情報・消耗品」にマウスポインタをあわせる
 3. 表示されたメニューの「商品情報検索(121ware.com)」をタップ
- ・接続する機器によっては、接続ケーブルが必要な場合があります。

USBコネクタに接続する

接続する前に

機器によっては、接続する前や接続した後にドライバのインストールや、スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどのインストールに必要なCDやDVD、フロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

メモ

・接続してすぐ使うことができるUSB対応機器がありますが、そのままではいくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

- ・USB対応機器は、本機の電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

接続するときの注意

- ・USB対応機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・USBコネクタにプラグをすばやく抜き差ししたり斜めに差ししたりすると、信号が読み取れずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続し直してください。
- ・初めてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込んでいない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
- ・スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USB対応機器を抜き差ししないでください。
- ・USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を外してください。
- ・外付けUSBハブ経由でUSB対応機器を使用する場合は、USBハブを本機に接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。
- ・USB機器の有無にかかわらず「デバイス マネージャ」ウィンドウにある「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」の記述は削除、無効にしないでください。


USB2.0を利用する

本機のUSBコネクタは、USB2.0に対応しています。USB2.0に対応している周辺機器を取り付けることで、USB2.0の転送速度を利用することができます。

チェック!!

USB2.0の転送速度を出すにはUSB2.0対応の機器を接続する必要があります。また、USB2.0の機器をUSB1.1規格のハブで利用した場合はUSB1.1の転送速度に制限されます。

USBコネクタに機器を取り付ける



- 1 USBコネクタ()にプラグを差し込む
USBコネクタが複数ある場合は、どのコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

接続したUSB対応機器が正しく本機に認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

別売の外付けUSBキーボードの接続

別売の外付けUSBキーボードは、USBコネクタに取り付けます。別売の外付けUSBキーボードにUSBコネクタがある場合は、別売のUSB機器を取り付けることができます。

USBコネクタから機器を取り外す

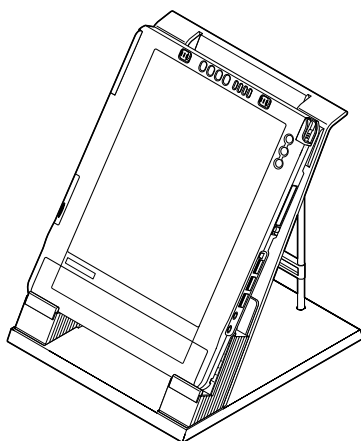
USB対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域(タスクトレイ)に  が表示されます。このような機器の取り外しは、  をダブルタップして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウインドウで行います。正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがありますので、「周辺機器の取り外しと再接続」をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

参照 USBコネクタから機器を取り外すには「周辺機器の取り外しと再接続」(p.88)

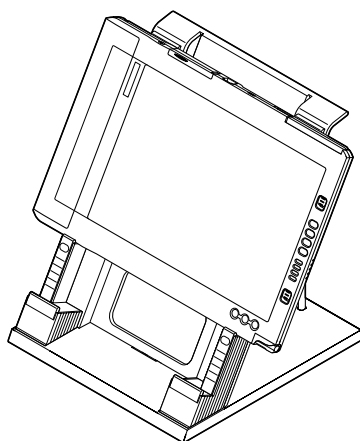
スタンド

スタンドを使う

展示などで本機を使用する場合や、USBキーボードやマウスを接続して使用する場合など、スタンドを利用して本機を立てて設置することができます。



縦に設置する場合



横に設置する場合

✓チェック!!

- スタンドは、購入時に「タブレットPC用スタンド」を選択した場合のみ添付されています。
- スタンドは組み立て式です。組み立て方については、スタンドに添付の組み立て説明書をご覧ください。
- スタンドは本機を立てて設置するためのものであり、本機を固定するものではありません。不安定な場所に置いたり、スタンドや本機が倒れるような衝撃を与えたりしないように注意してください。

システムの設定

BIOSセットアップユーティリティについて説明します。BIOSセットアップユーティリティは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップユーティリティの使い方」を読んだ後に、目的にあわせてお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップユーティリティの使い方 104



BIOSセットアップユーティリティの使い方

BIOSセットアップユーティリティは、本機の使用環境を設定するためのものです。

BIOSセットアップユーティリティの使い方

BIOSセットアップユーティリティの基本操作

- 操作はタブレットPC用ペンで行います。画面下に表示されている「**↑**」や「**F10**」などの文字をタップして、カーソルの移動や値の変更ができます。また、メニューによっては直接タップして選択できる項目もあります。
- 「**↑**」をタップするか、メニューバーを直接タップすることでメニューを選択できます。
- 「**↓**」をタップするか、設定項目の設定値の部分に直接タップすることで、設定項目を選択できます。
- 設定内容の値の変更は、次の操作で行えます。
 - 「**F5**」**↓**「**F6**」をタップすると値が変更されます。
 - 「**Enter**」をタップするとポップメニューが表示され、設定値を選択できます。
 - 設定項目の設定値の部分にタップすると、設定内容の値が変更されます。
- 設定内容(例: System Timeの時:分:秒)のカーソル移動は、「**Enter**」をタップすることで行います。時刻、日付の値は、「**F5**」**↓**「**F6**」をタップして設定します。
- ▶印がついた設定項目は、「**Enter**」をタップするとサブメニューを表示し、「**Esc**」をタップすると元の画面に戻ります。

起動のしかた

- 1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたらDOWNボタンを数回押す
BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

✓チェック!!

- BIOSセットアップユーティリティが表示されない場合は、DOWNボタンを押す間隔を変えてください。
- 「NEC」のロゴが表示されているときに、タブレットPC用ペンで画面をタップするか、Enterボタンを押すと表示されるメニューから「Launch System Setup」を選択しBIOSセットアップメニューを起動することもできます。また、タップした位置とカーソルが表示される位置がずれている場合、「Pen Calibration」を選択し、位置を調整できます。

終了のしかた

変更を保存して終了する

- 1 「F10」をタップ
セットアップ確認の画面が表示されます。
終了を中止する場合は「No」を選択し、「Enter」をタップしてください。
- 2 「Yes」が選択されていることを確認し、「Enter」をタップ
設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

メモ

メニューバーの「Exit」で「Exit Saving Changes」を選択し、BIOSセットアップユーティリティを終了することもできます。

変更を保存せず終了する

1 メニューバーの「Exit」をタップ

2 「Exit Discarding Changes」をダブルタップ

設定の保存についての確認画面が表示された場合は、「No」をダブルタップしてください。

設定値を変更せずにBIOSセットアップユーティリティが終了します。

工場出荷時の設定値に戻す

設定を工場出荷時の値に戻すときは、次の手順で行ってください。

1 BIOSセットアップユーティリティを起動する

2 「F9」をタップ

Setup Confirmationの画面が表示されます。
中止したいときは「No」をダブルタップしてください。

3 「Yes」が選択されていることを確認し、「Enter」をタップ

設定項目の設定値が工場出荷時の状態になります。

4 「F10」をタップ

Setup Confirmationの画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認し、「Enter」をタップ

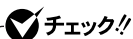
設定値が保存されて、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

以上で、設定は完了です。

設定項目一覧

ここではBIOSセットアップユーティリティでどのような設定ができるかを説明しています。表中の反転部分は、購入時の設定です。

「Main」メニュー



「Primary Master」の設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目		設定内容	説明
System Time		-	現在の時刻を「時:分:秒(24時間形式)」で設定します。
System Date		-	日付を「月/日/年(西暦)」で設定します。
Language		English(US) 日本語(JP)	BIOSセットアップユーティリティで使用する言語を設定します。標準では「English(US)」に設定されています。
Primary Master		-	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。
Primary Master	Type	Auto None User CD-ROM	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
	32 Bit I/O	Disabled Enabled	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
CPU Type		-	CPUタイプを表示します。
CPU Speed		-	CPU速度を表示します。
System Memory		-	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
Extended Memory		-	搭載されている拡張メモリを表示します。
BIOS Version		-	BIOSのバージョンを表示します。
Product name		-	型番を表示します。
Serial number		-	製造番号を表示します。

「Advanced」メニュー

設定項目	設定内容	説明
Silent Boot	Disabled Enabled Black ¹	ブート時の画面を設定します。
Legacy USB Support	Enabled Disabled	「Enabled」に設定すると、USBレガシー機能が有効になります。 「Disabled」に設定すると、フロッピーディスクドライブからの起動ができなくなります。
Remote Power On	Enabled Disabled	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。「Enabled」に設定すると、LANによって復帰します。
Intel(R) SpeedStep(TM) technology	Enabled Disabled	「Enabled」に設定すると、AC駆動の場合は自動的に最高性能で動作します。バッテリー駆動の場合はバッテリー残量に応じて最適な性能で動作します。「Disabled」に設定すると、Intel SpeedStep® テクノロジーが使用できなくなります。

1 : BIOSセットアップユーティリティを起動する場合は、電源を入れた後、1秒おきにDOWNボタンを押すことを何度か繰り返してください。

「Security」メニュー

セキュリティに関する各種設定を行います。

✓チェック!!

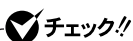
- ・ パスワードで使用できる文字は半角英数字のみで、8文字以内でなければなりません。また、大文字 / 小文字の区別はありません。
- ・ ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータが消えてしまい、ハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないように十分に注意してください。

設定項目	設定内容	説明
Supervisor Password Is	-	スーパーバイザパスワードの設定状況が表示されます。
User Password Is	-	ユーザパスワードの設定状況が表示されます。
Set Supervisor Password	-	スーパーバイザパスワードの設定または変更を行います。【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。
Set User Password	-	ユーザパスワードの設定または変更を行います。スーパーバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードの設定はできません。【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。
Password on boot	Disabled Enabled	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
Fixed disk boot sector	Normal Write protect	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。
Assign HDD Password	-	【Enter】を押すとハードディスクのパスワード設定画面が表示されます。
Primary HDD Password	Disabled Enabled	ハードディスクのセキュリティを有効にするかどうかを設定します。ハードディスクのパスワードが設定されていないと「Primary HDD Password」の設定を変更することはできません。

パスワードの変更と解除

・ スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード

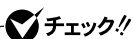
「Set Supervisor Password」または「Set User Password」を選択し、現在のパスワードを入力した後で、新しいパスワードを入力します。
新しいパスワードに何も入力しなければ、パスワードは解除されます。



スーパーバイザパスワードを解除した場合、ユーザパスワードも解除されます。

・ ハードディスクパスワード

「Assign HDD Password」を選択し、現在のパスワードを入力します。
マスタパスワードを入力した場合、新しいマスタパスワードを入力し、次に新しいユーザパスワードを入力します。
ユーザパスワードを入力した場合は、新しいユーザパスワードを入力します。
新しいユーザパスワードに何も入力しなければ、ユーザパスワードは解除されます。



マスタパスワードは変更のみ可能です。解除はできません。

「Boot」メニュー

設定項目	設定内容	説明
Network Boot	Disabled Enabled	「Enabled」に設定すると、ネットワークから本機を起動することができるようになります。購入時は「Disabled」に設定されています。
Boot Order	-	本機を起動するとき、上から表示されている順にOSを検索します。 OSが存在しないなど起動に失敗した場合は、次のデバイスから起動します。デバイス名の左に+の表示があるデバイスにカーソルをあわせて【Enter】を押すと展開表示されます。 起動するデバイスの順番を変更するには、【 X 】を使用して変更したいデバイスにカーソルをあわせて【F5】で上に、【F6】で下に移動します。

付録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

割り込みレベル・DMAチャンネル	112
お手入れについて	114

割り込みレベル・DMAチャネル

本機で使用できる周辺機器は、全て「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル (IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

割り込みレベルとDMAチャネルについて

リソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態 (リソースの競合) では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいますので、競合しないように設定してください。

割り込みレベル

「割り込みレベル (IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを定めるものです。本機では、購入時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	7	(空き)
1	タブレットボタン	8	システムクロック
2	(空き)	9	ACPI用システム制御割り込み
3	(空き)	10	USBホストコントローラ
4	デジタイザ		アクセラレータ
5	SMBusコントローラ		内蔵LANインターフェイス
	USBホストコントローラ		11
	ワイヤレスモジュール	12	(予約済)
	CardBusコントローラ	13	数値データプロセッサ
	サウンド	14	プライマリIDEコントローラ
6	(空き)	15	(空き)

: 無線LANモデルのみ

DMAチャンネル

「DMAチャンネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。本機では、購入時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス
#0	(空)
#1	(空)
#2	(空)
#3	(空)
#4	DMAコントローラ

お手入れについて

お手入れを始める前に

✓ チェック!!

- ・ お手入れにはシンナー、ベンジンなど揮発性有機溶剤や化学雑巾は使用しないでください。外装を傷めたり、故障の原因となることがあります。
- ・ 水やぬるま湯を本機に直接かけないでください。傷みや故障の原因となることがあります。

準備するもの

汚れが軽い場合は、やわらかい素材の乾いたきれいな布を用意してください。汚れがひどい場合は、水かぬるま湯を含ませて強くしぼったきれいな布を用意してください。

メモ

OA機器用クリーニングキットも汚れをふき取るのに便利です。

OA機器用クリーニングキットについては、NECにお問い合わせください。

参照▶ NECのお問い合わせ先について 『保証規定&修理に関するご案内』

お手入れのしかた

本体

用意した布でふいてください。

液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布でふいてください。
水やぬるま湯は使わないでください。

フロッピーディスクドライブ

別売のクリーニングディスクを使い、ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

電源コード / ACアダプタ / ウォールマウントプラグ

長期間にわたって接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。

定期的にはこりをふき取るようにしてください。

参照 ▶ NECのお問い合わせ先について 『保証規定&修理に関するご案内』



索引

索引

英字

BIOSセットアップユーティリティ	104
CD-ROMドライブ	56
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	56
CD/DVDドライブ	5、56
Ctrl + Alt + Delボタン	42
DMAチャンネル	112
DOWNボタン	42
DVDスーパーマルチドライブ	56
Enterボタン	42
Escボタン	42
Fnボタン	42
IRQ	112
Intel SpeedStep®テクノロジー	30、37、108
LAN	66
LAN用モジュラーコネクタ	17、19、67
MIDI	64
NEC専用電源I/F	16、20、57
UPボタン	42
USB	98
USBコネクタ	16、19、85、98

あ

アンテナロックスイッチ	17、20、76
液晶ディスプレイ	16、18、44
お手入れ	114
音楽CDのデジタル再生	62

か

解像度	44、90
外部ディスプレイ	90
外部ディスプレイコネクタ ...	17、19、85、91
画面回転機能	45
画面回転ボタン	42、45
輝度	44
休止状態	30、33
休止状態からの復帰	34
コンパクトフラッシュカード	95

コンパクトフラッシュカードイジェクトボタン	16、19
コンパクトフラッシュカードスロット ...	16、19、85

さ

サウンド機能	61
サスペンド	32
周辺機器	83
省電力機能	30、46
スタンド	101
スタンバイ状態	30、32
スタンバイ状態からの復帰	34
スーパーバイザパスワード	78、109
スピーカ	17、18
スリープ状態	30
セキュリティ機能	77
セキュリティケーブル	18、81

た

タブレット	38
タブレットPC用ペン	16、18、38
通風孔	17、20
ディスクアクセスランプ	21
ディスプレイの切り替え	92
デバイスドライバ	87
デバイスマネージャ	6、86
デュアルディスプレイ機能	47
電源コネクタ	17、19、85
電源スイッチ	16、18
電源ランプ	20
盗難防止用ロック	17、18、81
ドライバ	87

な

ネットワークブート	69
-----------------	----

は

ハードディスク	50
ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止	81、109

ハードディスクのパスワード	79、109
ハイバネーション	33
パスワード	77、79、109
バッテリー	22
バッテリーアンロック	17、19、29
バッテリー残量	25
バッテリー充電ランプ	21
バッテリースロット	28、85
バッテリーの充電	25
バッテリーパック	16、19、22、28
バッテリーパックの交換	28
バッテリーパックのリサイクル	22
バッテリーリフレッシュ	26
非常時ディスク取り出し穴	58、60
表示色	44、90
表示ランプ	16、18、20
プラグ&プレイ	87
フロッピーディスクドライブ	54

ま

マイク	63
マイク入力	16、18、85
マウス	89
無線LAN	72
無線LAN ON/OFFスイッチ	16、20
無線LANアンテナ	17、20、76
無線LANランプ	21

や

ユーザパスワード	78、109
----------	--------

ら

ライン/ヘッドフォン共用出力	16、19、85
リソースの競合	86
リモートパワーオン機能	37、70

わ

割り込みレベル	112
---------	-----

このマニュアルは再生紙
を使用しています。



Li-ion

リチウムイオン電池のリ
サイクルにご協力くださ
い。



活用ガイド

ハードウェア編

PC98-**NX** SERIES

VersaPro

VersaPro J

タブレットPC

初版 2004年9月
NEC

853-810602-167-A